

ぼ だい じゅ
暮 提 樹



2025

京都文教^中高等^高学校生徒会



菩提樹 第66号

令和7年3月1日 発行

一年の歩み	1
フォトサロン	4
努力すること 学校長 石橋 克彦	17
授戒を受けて	19
クラブ活動	30
H・Rだより	X
詩林	X
生徒会活動（新年度生徒会役員）	X
生徒会役員をして	X
今年定年退職される先生方から	X

3月 2月 1月 12月 11月 10月

卒業式
二年生修学旅行
予餞会
三学期始業式
授戒会
二学期終業式
芸術鑑賞会
生徒会選挙
知恩院参拝



9月 8月 7月 6月 5月 4月

花まつり入学式
遠足
授業参観
一年生大学訪問
一学期終業式
二学期始業式
合唱祭
文化祭
舞台発表部門
体育祭



フォトサロン 写真部



令和6年度私学展
「平和の宝箱」 佳作

高2 清水 愛未



第49回浄土宗芸術祭
「帰宅」 美術奨励賞
高2 山田 龍太郎



第41回京都府高等学校総合文化祭 出展
「暮色蒼然の夕さり」 高2 藤川 恒樹



第49回浄土宗芸術祭 美術奨励賞
「春の集合体」 高1 藤本 千尋



第41回京都市府高等学校総合文化祭 出展
「もうすぐ大人」 高3 池山 あおい



令和6年度私学展 出展
「県境にいる男」

高3 加藤 遥



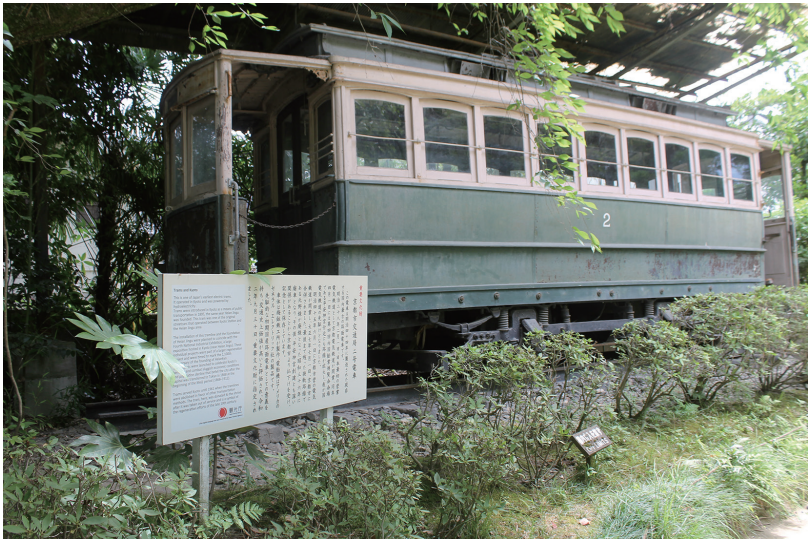
令和6年度私学展 出展
「実は仲良し」

高3 川崎 詩優



令和6年度私学展 出展
「閑寂の流」

高3 亀田 晴菜



令和6年度私学展 出展
「タイムマシーン2号」

高3 村田 現月



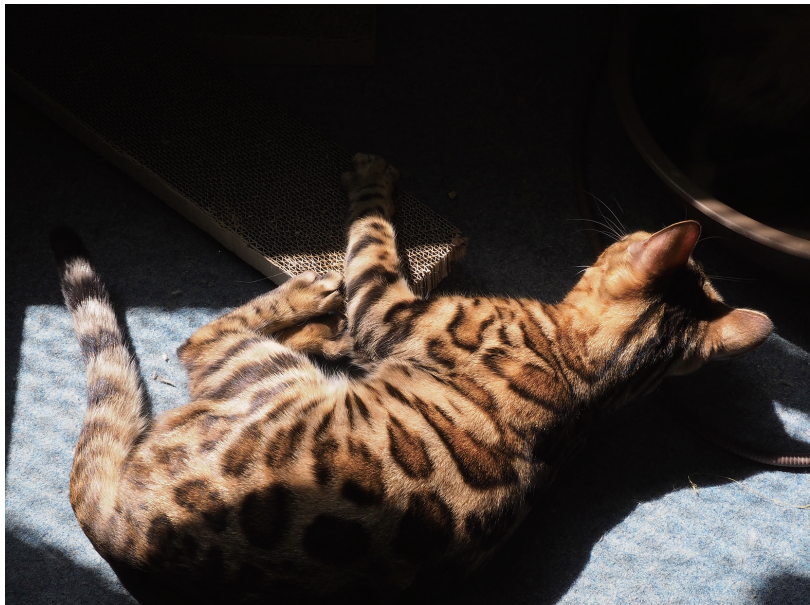
令和6年度私学展 出展
「つがい」

高3 稲岡 映心



令和6年度私学展 出展
「神々しく着地」

高3 寺村 のぞみ



第49回浄土宗芸術祭 出展
「日向ぼっこ」

高3 吉田 有那



第49回浄土宗芸術祭 出展
「空への花道」 高2 上野 悠紀人



令和6年度私学展 出展
「雨の中の終バス」 高2 樋口 雅人



令和6年度私学展
「ベシタリわんつ」

高3 今井 遥



第41回京都府高等学校総合文化祭
「オイラのなわばり」 高2 山田 亜希人



令和6年度私学展 出展
「見上げれば奇跡」

高2 清水 海翔



令和6年度私学展 出展
「街」

高2 近藤 隼太



令和6年度私学展 出展
「高嶺の女王」

高2 野々井 夏希



第41回京都府高等学校総合文化祭 出展
「女子会」

高2 山内 駿



第41回京都府高等学校
総合文化祭 出展
「日本のサーカディアリズム」
高1 飯田 颯太



第41回京都府高等学校
総合文化祭 出展
「捨てられたボス」
高1 廣岡 拓篤



令和6年度私学展 出展
「帰り支度」
中3 片山 太慈



第41回京都府高等学校総合文化祭 出展
「私だけの特等席」
高2 中村 陽



令和6年度私学展 出展
「こっち！」
高2 五十里 愛夏



努力すること

学校長 石橋 克彦

「目標に向かって努力する」とみなさんはよく言います。社会人になっても、自己研鑽に励んでいる人もいれば、何かと言いつつ何もしない人もいます。努力するとはどういうことでしょうか。

努力することの重要性は、まず目標に対する実現性を高める点にあります。目標がどんなに大きくても、それに向かって小さな一歩を踏み出すことが、結果としてゴールに近づくことができます。例えば、学習や部活動など、自分が何かに取り組んでいる場面で、最初はできなかったことも繰り返し努力することで、着実に成果を得られるようになります。また、努力の過程で失敗や挫折を経験することもありますが、それら乗り越えたとき、自己の成長や達成感を感じることができ、次へのモチベーションにも繋がります。「努力」は必ずしもすぐに報われるわけではないことも現実です。けれども、たとえ成果がすぐに現れなくても、その過程で培われた忍耐力や問題解決力、人間としての成長こそが人生において大きな財産となるのです。

みなさんにも「〇月〇日までに原稿を仕上げる」や「次のテストは80点以上取る」などのような、簡単に目標設定はできます。問題はどうすれば実行することができるかです。自分の身の回りの環境や体調も影響します。人と話すことで周囲に対する競争心や、闘争心が刺激されることもあります。私は鉄道が好きで「歴史上の人物の名前は覚えられないのに、鉄道の駅名や列車の形式はすぐに覚えられた」という経験があります。趣味など好きなものはすぐに頭に

令和6年度私学展 出展
「夜の空」 中2 河田 愛莉



令和6年度私学展 出展
「夜に光る」 中2 坂上 奈々美



「やんのか? コラ」

顧問 瀬川 ひとみ

入っても興味のないものはなかなか難しいものです。しかしそれでも「努力」は誰でもできるものです。時間をかけたり、方法に工夫を加えれば誰にでも可能だと思います。努力には2つ種類があります。1つは「自分が努力している」ということを周囲にアピールしながらする努力」です。次のテストは80点以上取るとみんなの前で約束して毎日勉強することです。周りの人にわかるようにする努力は、自分を励ましてくれます。人に見られることで自分に打ち克つことができるのです。

2つ目は「隠れた努力」です。人に知られることなく自分だけでひそかにする努力です。毎日で家でコツコツ勉強するのもこれにあてはまると思います。誰にも知られずに努力するのですから、強い意志がないとできません。ある本に書いてありましたが、一人の有名な野球選手は高校時代、毎晩夜遅くまで公園へ行って素振りをし、毎日コツコツとトレーニングを積み続けたそうです。そしてやがてその人は名実ともに立派な有名選手になりました。

どちらの努力も重要であり、成功を収めるためには、目に見えない努力があつてこそ、目に見える努力の成果が出る土台となり、長期的な成功に繋がるのです。

みなさんなら「毎日20時までには必ず宿題・予習・復習を済ませる」「学習中はスマホの電源を切り、リビングの机に置く」「単語を1日10個覚える」などのマイルールをつくることで、気持ちも切り替えやすくなるでしょう。努力を継続するためには、ゆっくりマイペースで目標を達成していく取り組みが大切です。目標は高すぎても低すぎてもいけません。現在の自分より少しだけ上の位置を意識するとよいでしょう。

普段の通勤・通学やリラックスタイムにでもできるような「ながら努力」に切り替えてもいいでしょう。「努力」は無理なく生活に溶け込んでいる習慣に組み合わせることで、自然と継続につながるはずです。頑張ってください。

高校二年生

授戒を受けて

一組 西田 百花

授戒会を通して、私自身学べたことや、貴重なお話、

ためになるお話を多く聞かせていただきましたが、それらのお話すべてこれからの人生、生涯忘れずに頭に刻んで生きていこうと思えました。たとえば、「自分を自分より愛する者はいない」、この言葉は、私の中で強く印象に残り、まさにその通りだと感じたのです。人間誰しも、自分自身が一番大事な存在で、自分のために生きています。私はこうした考えは悪いことだと感じていましたが、自分が一番大事なのは他の人にとってもそうで、他の人もまた、その人自身が一番大事な存在なので、他人を傷つけないことが自分を大事にすることなのだとお話を聞いて納得しました。しかし、お話に出たように、自分を大事にすることなのだとお話を聞いて納得しました。しかし、お話に出たように、自分の意見や価値観を正当化してしまい、一人一人の正義がぶつかり合い、醜い争いが起きてしまっている。こうし

た現状も事実ですから、自分が正しいと思ひこむようなことは、決してしてはいけなさと感じました。

また、出来損ないのお坊さんのお話にでてきたセリフ「自分の目がずっと見ていたから鳥を殺すことができませんでした」。私は、この言葉を聞いたとき、なるほどと思いました。なぜなら、私が今までしてきた悪事を鮮明に思い出すことができるからです。それはやはり自分の目が見ていたからなのだと納得しました。結局のところ、人間悪事をするとき必ず誰かに見られているので、悪いことはできないと身に染みて感じました。

最後に、授戒とは何のためにするのか、私は、集団で生活する私たちにとって、きわめて大切な行事だと切実に感じました。よりよく生きるということは、他者と喜びを分かち合い、時には悲しみ苦しみを分け合うことだと学びました。そのためにも、人とのご縁を大切にし、他人の為に生きられるような人間になれるよう、精進しよう。この授戒会を通して学ぶことができました。

二組 森 上 碧

今まで体験したことのない三日間を過ごしてみて、今までの行いを振り返ることができました。そして話を聞いて考えることが沢山ありました。例えば、線路に飛び込んでしまった人にたいして大人たちは「また人身事故

か」と飛び込んでしまった人にたいしての不満がもれている。この世界はおかしいと考えた男の子の話でした。その時に私も登校する時や遊びに行く時に人身事故があり、電車が止まっていたら同じことを考えているなと思ってしまいました。私は「なんで今なんだろう」とまで思ったことがあります。今思うと最低なことを考えていました。亡くなった方の気持ちは考えていませんでした。学校生活や社会環境で沢山しんどいことを経験し、逃げたいけど逃げられない、相談したいけど話せない環境、だから逃げ道は「自殺」だった人に対して亡くなった後まで誹謗中傷は本当に人間として最低なことをしてしまっていたと行いを振り返りました。

私が今回の授戒会を通して一番覚えていたことは誰も見ていない所で小鳥を殺したら弟子になれるという課題で他の子たちはすぐに課題を達成して戻ってきたが一人の子だけは時間になっても戻ってこず、やっと戻ってきたと思ったら小鳥は生きていて、なぜ殺さなかったと聞くと、「誰も見えない所で殺しても自分の目が見ている」と答え、師匠はその返答にとても正しい行動だと思ったのでその子を弟子にしたという話です。私はこの話を聞いた時、悪い行いをしたときのことでも善い行いをした時、自分の目にちゃんと焼き付いているなと思いました。そこで自分のことを一番理解したり、時には自分を苦しめたりするのは「自分」だと思います。

今回の授戒会を通して今までの行いを振り返って今後

に活かしていける三日間でした。そして戒名を頂き「碧翠」という名の意味は仏の教えを学び、沢山のの人に伝えるだったので、その名に恥じない生き方をしていきます。

三組 東伏 見果子

私は授戒を受ける前、仏教の戒律や儀式に対してある種の距離を感じていました。戒律というと、何か厳しくて堅苦しいもの、日常から離れた理想的な存在だと捉えていたのです。しかし、実際に授戒を受けたその瞬間、私の中で何かが大きく変わったような気がしました。それは戒律が単なる外的な制約ではなく、自分の内面を見つめ直すための大切な道具だという気づきでした。授戒を受けるということは、単に仏教徒としてのスタート地点に立つことではありません。それは、私の存在全体を新たに捉え直すきっかけでした。授戒の儀式の最中、僧侶の静かな声が私の心に深く染み渡りました。戒律が私を律するものではなく、むしろ私を自由にするために存在していることに気づいたのです。例えば「不殺生」という戒が示すのは、単に命を奪わないことだけではありません。もっと深いところでは、他者の存在を尊重し、他者の痛みを自分の痛みとして感じることを求められているのだと感じました。この感覚は、単に物理的な行動にとどまらず、自分の思いや行動にも深く影響を与える

ものであることに気づきました。また、授戒を受けることによって、私が普段意識していなかった「欲望」に対する見方が変わりました。「不貪欲」の戒は、物質的な欲求を抑えるという意味だけではなく、心の中の過剰な期待や執着をも解放することが含まれていると感じました。自分の欲望にとらわれず流れに任せることができれば、もっと自由で平和な心を保つことができるのではないかと思うようになったのです。授戒を通じて私はまた、仏教が私たちの「今ここ」を大切にすることを教えることを改めて実感しました。過去の後悔や未来の不安にとらわれず今この瞬間をどう生きるのかを問われているのだと感じました。それは今までの私の生き方にとって、非常に大きな転換点となりました。

四組 加藤 倅太

私は、人生で初めて授戒会という行事を体験しました。いつもの学校行事とは全く違った空気感で少し緊張していましたが、いざ行事が終わるととても特別な期間を経験できたと思いました。特に戒名をいただいたことや、作法を学んだこと、黙食といった体験が心に残っています。

授戒会の中で、まず印象的だったのは、学校全体の静けさです。普段の生活では友達たちと、話しながら過ご

すことが多いのでこの静けさには驚きました。そして、その雰囲気のおかげで気持ちが引き締まり、大切な時間を過ごしていると自覚することができました。作法では、手を合わせて体を清めたりする動作や立ったり座ったりなどの仕方など、普段の生活ではなかなかしない行動をすることによって一つ一つ丁寧に行うことの大切さを感じました。初めてすることばかりで少し緊張しましたが、作法をきちんと行うことで、心が整っていくのを感じました。

戒名をいただく場面もとても印象的でした。担任の先生から合唱をしながら自分の戒名をいただきました。いただいた戒名には深い意味が込められていることを知り、その名前にふさわしい自分になれるようにもっと自分を成長させていきたいと思えます。また、黙食という体験は、普段は友達と話しながら食べるのが当たり前で、一人で黙って食べるのは少し落ち着かない感じがしました。黙食をするというのは、食事に集中し、食べ物に感謝するためにあるのだと思いました。

今回の授戒会を通じて、普段の生活では体験できない時間を過ごすことができました。作法や戒名、黙食などといった初めての経験でしたが、改めて自分自身を見つめなおす大切さを学びました。今後は、普段の生活の中で当たり前に行っていることにも感謝し、自分自身の成長につなげていきたいと思えます。そして、いただいた戒名を大切にし、より充実した日々を過ごしていきたいです。

五組 田中菜乃

授戒会は、仏教の教えや戒律を学び、自らの生き方を見直す貴重な機会でした。日常生活の中では目の前の出来事に追われ、自分自身について深く考える機会は限られています。しかし、授戒会に参加したことで、改めて心の在り方や日々の行動について振り返る大切さを実感しました。

授戒の儀式は非常に厳かで、普段味わうことのない独特の雰囲気がありました。同級生と共に授戒会を受けることで、連帯感を感じることができ、現代社会において仏教の教えがいかに深い意義を持つか再確認することができました。

授戒会を通して印象に残ったことは、人間が人間として生まれたことを誇りに思うべきということです。生まれたことを当たり前だと思ってしまうと、好き勝手なことをしたり罪を犯してしまうことがあります。悪いことをすれば悪い報いを受けるので、普段から全てに意味があり、感謝の気持ち忘れずに生きていこうと感じました。また、話を聞いている中で戒律の戒は自発的に行うものであり律は規則などといった意味があると分かりました。どのような場面であっても戒律を守るというのは容易ではないと思いますが、自分や周囲の人の幸福を守るための大切なルールであると分かりました。

ちだけど、他人の立場を考えたたり、協力することの重要性が理解できました。

私が一番心に残ったのは、前行の時に言っていた「まずは自分を好きにならなさい、愛しなさい」「自分を褒めてあげる」という言葉です。私は人見知りやネガティブな性格で他人と比べてしまうことが多々あります。他にも本来の自分とは違う自分で人と接したり本音を言わず気を遣いながら接したりすることもあります。こんな自分を好きになることができません。自分を好きになれば、今よりもっと人生が明るくなるのではないかと考え、この言葉が一番心に残りました。

「他者を思いやること」や「自分を大切にすること」は日常生活の中で忘れがちなことだけど授戒会ではそのことを改めて意識させてくれる機会になりました。

授戒会の最後に仏教の教えを学び、戒律を守ることを約束した証として戒名をもらいました。私は、他の手本となり皆を正しい方向へ進められる人として「來由」という戒名をもらいました。

授戒会を受けて、多くのことに気づき、自分自身を見つめ直す良い機会になったと思います。この貴重な経験で学んだことを日々の生活に活かし、少しでも成長していけたらいいなと思います。

人生において二百万人もの人が力を貸してくれているという話も興味深かったです。自分が普段食べているものや着ている服などはすべて作ってくれている人がいて、友達や家族に対する感謝だけでなく、その人達にも感謝を忘れないことが大切だと気付きました。また、自分中心の考えを持った友達ではなく友達の喜びを自分のことのように喜んでくれ、苦しみを共有できるような本当の友達との関わりを大切に生きていきたいです。

今回の授戒会で得た気付きや経験を日々の生活に活かし、より良い人生を築くために努力していきたいと思いました。

六組 白須未来

授戒会を受けて、非常に貴重で意味のある体験ができたと思います。これまでの自分を振り返り、今後の生き方を考える良い機会になりました。正授戒では前行と違って電気を消し、清めた状態で瑠璃殿へ入りました。気持ち引き締まるような空気でより緊張感がありました。

私は、今まで毎日をただなんとなく無意識に過ごしていたけど、授戒会を受けて自分自身としっかりと向き合うことが大切なのだと感じました。他人への配慮の大切さも学びました。普段は自分のことで精一杯になりました。

七組 吉崎大地

私は、授戒を通して私の中で新しい決意をする事が出来ました。授戒の中で、今までの自分自身の生活を見つめ直し、生まれてから今までの間違っていた行動とこれからの生き方について真剣に考える機会を得ることが出来ました。

最初はあまり乗り気になれず、辛いと感じていたけど、お坊さんの話を聞いているうちにだんだん気が引かれていって話の内容と自分の生活を照らし合わせて集中して聞く事が出来ました。この話の中で印象的だった言葉が二つあって、一つ目は「地球は過去の人が作り上げた物であり、未来へ繋ぐ物。」という言葉で、ここでは過去の人が作り上げた物を受け継ぎ自分や今生きている人が未来へ繋げていかなければならないと考え、繋いでいかなければ、この世界は進歩していかないと考える事が出来ました。だから自分が目上の人に教わった事はしっかりと年下の人に繋いでいこうと思いました。二つ目は「自分が人に優しくした人がまた他の人に優しくして、それが広がっていけば世界は豊かになる。」という言葉で、ここでは確かにそうすればこの世から戦争は消え、差別も無くなり、平等で豊かな世界になっていくと考えることが出来ました。だから自分は困っている人を助けてあげたり、相談の乗ってあげたりして優しくしていこうと

思いました。

この授戒で日常生活における行動や思考に対する責任感が一層強まりました。特に、自分の内面磨き事や他者への思いやりの重要性を考え直し、これからの人生において大切にしていきたいと感じました。授戒後は、学校生活の他に部活でも戒律を意識し、より良い自分を指して成長していきたいと思います。この授戒は私にとって自分自身の生活を見つめ直す事が出来たととても大切な出来事でした。これからもこの教えを忘れることなく胸に刻んで日々精進していきたいと思えます。

八組 水内 琴音

私は授戒会を通して、自分自身や他者、また生き物などを大切にすることの重要性を学びました。

初めて講話を聞きましたが、私は仏教に関することなどを淡々とお話されるのだと思っていました。しかし、平井先生のお話は地震で身近な方が亡くなられたお話や、平井先生ご自身のことなどの私達も経験したことのあることや、これからの人生の中で経験するかもしれない出来事などお話されていました。私は仏教に関わるお仕事に就いておられるような方は、小さい時から仏教に触れ私達とは少し違った育ち方をされているのだと勝手に思っていました。しかし、今回の講話を聞き私たちが

十組 上村 みのり

私は今回の授戒会を受けて、印象に残ったり、心に響いた言葉は、「発心」と「広願」です。計六回の説戒を聞き、たくさんのことを知り、理解することができた中で、なぜこの二つの言葉が残ったのかというと、まず、「発心」は、「目に見えるものでも見えないものでも遠くに住むものでも近くに住むものでもすでに生まれたものでもこれから生まれてくるものでもすべての生きとし生けるものは幸せであれ」という釈尊の言葉が心に残ったからです。私は、「幸せ」という言葉が元々好きで、大事にしています。生きているもの、これから生まれてくるものすべてが幸せであるということは良い世の中になると思いました。

次に、「広願」という言葉がなぜ心に残っているのかというと、「悪の連鎖を断ち切り、善の連鎖を広げる」という部分です。人に何かしてもらった時に、その人に恩を返すことを繰り返すと、恩の連鎖がおきて、皆が幸せに生きられて、先ほどの「発心」の言葉に似ていて、つながっていると思いました。

またもう一つ心に残ったものがあります。それは、「苦しい時も笑え」、「恩と死を忘れるな」という言葉です。私は、人間は笑うと、楽しい気持ちになったり、気持ち楽になったりする効果があると考えています。なので、

同じように学んだり、私達と同じように雑念や欲望のような感情もあるし、過ちを犯した事もあると知りました。そして、その犯した過ちをどう反省するか、抱いた感情をどのようにしておさえ他者や自分自身を傷つけないようにするかをしっかりと考えていかなければならないことも学びました。

私達の人生の中で思い通りに物事が進まない時や、他者や自分自身が何を思っているかが分からずどうしたら良いか迷ってしまったり行動になかなかうつすことができないことがある。そんな時は、私達の幸せのためにどうするのが一番ベストなのか、またその行動によって損や得した経験があるものは、さらに得ができるように努力して考えるべきだということを感じ、これから先に自分の思い通りにならない時には自分にとってこれはいい経験だと考え、他者にとつてどう言葉をかければその人により良い生活を送ってもらえることができるのか瞬時に考え他者のために行動したいと思えました。

これから、たくさんの出来事がある中でしっかりと自分のため、他者のために行動してたたくさんの経験をしたいと思えました。

つらい時こそ笑うことが大切だとおっしゃっているのを聞き、心に響きました。

人間は誰でも間違ったことをしてしまったり、良くないこともしてしまいます。しかし、そのことに気づき、反省して手を掌わすことですばらしい人間になっていくのだと理解しました。また、一人一人違うのだから、それぞれのペースで進めばいいということ、今生きていることは、「当たり前」ではないことを仏教を通して教えて頂いたと感じます。私は、生まれてきて色々な人々と「縁」があり、その人たちに助けられ、今こうして、毎日楽しく、幸せに生きることができています。毎日色々な人に感謝して生きていきたいと思えます。

十一組 藤原 明里

私はこの授戒会で人として生きていくなかで大切なことを改めて再確認できた。そしてこの授戒会で得たことは自身の成長にもつながったと思う。

正直なところ、授戒会がはじまるまでは宗教行事に対して少し抵抗があり、「なぜ授戒会を受けなければならぬのか」という疑問を抱いていた。

そのような疑問を持ちながら迎えた授戒当日。どのようなことが説かれるのか、説戒ということで仏教の専門的な内容ばかりで難しいのではないかと構えていたが、

実際にはそのようなことはなかった。悪いことをしない、誰かのためになることをするなど、誰もが幼い頃に教えられたことだった。最初は「なんだ、そんなことか。当たり前のことではないか」と考えた。しかし、当たり前だと軽視していることを果たして自分は実践できているのだろうかと考え始めた。

そのように考えていたとき、説戒師さんのお話もハッとさせられた。常に自分のしたいことばかりに気を取られ、周りのことを後回しにしているのが今の私ではないかと。まさにその通りだった。私を含めほとんどの人は一時誰かのためを思うことはできる。しかし、結局は自分が一番であり、日常生活で他のことなど考えていないだろう。小難しいことよりも、当たり前のことを大切にすることが重要だと気づかされた。

この気づきを得てから、宗教行事という抵抗感が薄れ、「人として大切なことを学ぶ機会」として受け入れることができた。

その後、正授戒を終えて戒名を貰った。私の戒名は「仏の智慧を頂き皆を幸せにする人」という意味が込められたものだった。私はこの戒名に相応しい人になりたいと思った。そのためにはまず、自分だけでなく他者にも目を向け、この授戒会で得た考えを日常生活にいかしていきたい。そして、少しずつ自身を成長させていきたい。

授戒を終えて

小嶋 恵理子

目を閉じ合掌をすると心静かになる感覚があり、黙想をするのが実は私は好きだ。この授戒会では目を閉じ、南無阿弥陀仏と何度となく唱える機会があり、その度心が鎮まり、ふと異なる場所に身を置くような感覚に誘われた。その感覚はたしかに私が私自身と向き合うのに最適な土俵であった。平井上人の有り難いお説戒をお聞かせいただく中で、私は自分自身を見つめていた。そして、いくつかわかのことを考えた。

まずは、数多ある種族の中から「人」として生を受け、また、父母・家庭環境・場所など今ここに存在している自分という存在がいかに稀な縁で存在しているかということを考えさせられた。今まで生きてきて、決して平坦なだけの人生ではなかったが、私はたしかに恵まれた生を受けたと感じている。これはなんと有り難いことなのか。何となく生きていると、このようなことを考えることもなかなかないが、私が私として生を受けたことに感謝をすべきことなのだと感じた。また、縁あってこの文教学園に來させていただき、お釈迦様の教えを学べる機会を得られたという稀なる縁についても有り難いことなのだと思えることができた。

そして、私が今の私として存在できているのには、直接関わり合ってきた人々はもちろん、他にも例えば、食べられている野菜を育ててくださっている方、運搬する方、販売される方等々直接の関わりはなくても、私にとってなくてはならないことをしてくださっている数多くの人がいるからということをしちんと自覚できているのだからと気づかされた。私は助けられ、生かされているのだと気づいたのだった。これまでも自分に関わりのある方々について考えたことは度々あるが、その度に多少の感謝は持てども、すぐに忘れてしまうことが常であったと感じる。この度の教えを受け、自分はそういった方々の存在なしには十分に生活できないことに向き合い、感謝の心を忘れないようにするとともに、謙虚な心で向き合っていきたいと強く感じた。

他にも多くのことを考えたが、自分が「このような人として生きていきたい」という姿を思い描く機会となったことが何よりも大きな学びだったと感じる。思い描いた姿に少しでも近づけるよう、日々精進し、自分も他人も幸せにしていける人生を一步ずつ歩んでいきたい。

重政直弥

「菩提の広路には戒を資糧となし、生死の大海には戒を船筏となす」

授戒会の最初の説戒で説かれた教えであり、そのとき、私たちは、清く正しい心でよりよい人生を歩んでゆくために、これから仏様の教えやお言葉を学んでいくのだと深く心得た。「見た言葉・聞いた言葉が心をつくる」「遣う言葉が人生をつくる」と生徒たちに伝えたこともあるが、今まさに、仏様が残されたお言葉を学び、人生の糧としたいと思った。

平井隆祐上人のお話の中で強く印象に残ったことは、他の動植物には無く人間だけが高度に持っているものが「想像力」だと、お釈迦様が説かれたということである。人間は、目に見えないものを見て、考えて、作り出すことができる唯一の生物である（これは決して傲慢で他の動植物を軽んじるわけではなく、他の生物もまたそれぞれ人間には無い器官や身体能力を備えているのであり、すべての生命は平等だということが前提にあると解釈している）。人間には想像力があるからこそ、共感と互助をすることができ、社会を形成してこれまで生き残ってきた。しかし、現代に至り、目の前にいない他者・顔も名前も知らない他者との交流が可能になったことで、その力の重要性が強く叫ばれるようになった。また、これまで大きく負担をかけてきた地球の未来に思いを馳せ、行動を変えていかなければならないことは、全人類の共通課題である。目の前にいる相手はもちろん、目に見えない相手やまだ見ぬ未来のことを考える力がいま求められている。深い思考力と適切に伝える力は、言葉によつ

て支えられている。生徒たちが言葉の重要性を理解し、豊かな言語力を身につけていくことを支援するのが、国語科教員の使命であると改めて自分に言い聞かせることができた。

言葉は、心の糧であり、人生の道を示してくれる。言葉を大切にすることで、豊かな心を育み、未来を照らすことができる。国語を通じてよりよい人生をつくっていく、そんな学びを文教の生徒たちと共有したい。このようになことを考える機会をくださったことに、深く感謝申し上げます。

山崎 太一

現代社会における教員の意義というものを今回の授戒会にて再認識し、身が引き締まる思いであります。

そもそも教員とは、授業による知識や技能を与えるだけの仕事ではありません。生徒は、授業、休み時間、行事、課外活動など、二十四時間のなかで大半を学校生活が占めます。その学校生活で成長の機会を与え、見届けられることが最も比重を置くべき仕事であり教育であると考えます。今回の授戒会により自分自身のことを見つめなおす機会をいただき、教育者について再度深く考えさせられました。

なかでも、説戒師を務めてくださった平井隆祐師の

「拔苦与楽」という言葉には感銘を受けました。苦しみを除いて安楽を与えることという意味ですが、教育者である私がプライベートも含めた生活の中でどれほど実践できているかはわかりません。子どもは人をよく観察していますので、生徒の将来や今後の生活の中で生き抜く力を育んで欲しいという思いで指導したとしても、他人に与えるべき職業の教育者が日頃から「拔苦与楽」を実践していなければ生徒には伝わらないのではないかと感じました。また、昨今の社会情勢として税金は上がり、物価も上がり、生活に余裕がなく多くのストレスを抱えながら生活している人々が増えてきたように感じます。その結果、「拔楽与苦」という、自分ばかりが安楽を求め周囲の人に苦しみを与える人もいるのではないでしようか。このような状況の中でも常に向上心を忘れず、他人に楽を与えられる人を育成していくために、自分自身が「拔苦与楽」の生活を送るようにしていかななくてはなりません。

我が校の校訓でもある「三宝帰依」のもと今後も教員として人として、「謙虚にして真理探究」「誠実にして精進努力」「親切にして相互協同」して自らの人生を歩んでいきたいと考えます。また今回の私のように、自分について見詰め直す機会や気付きを周囲の人へ「与える」ことができるよう日々精進して参りたいと考えます。

第77回京都府高等学校陸上競技対校選手権大会
男子
400m 第5位 板倉大和
4×400mR 第3位 三野・西山・和多田・板倉
三段跳 第7位 柳田淳海
女子
200m 第6位 伊藤さつき
400m 第4位 伊藤さつき
800m 第3位 藤淵眞子
第7位 吉住彩乃
100mH 第7位 山中真琴
三段跳 優勝 山中真琴
4×100mR 第5位 菱田・山中・岡本・伊藤
4×400mR 第3位 伊藤・山中・吉住・藤淵
七種競技 第3位 圓城寺海穂
第5位 松本葉音

第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
近畿地区予選会
男子
400m 出場 板倉大和
女子
400m 第6位 伊藤さつき
800m 第7位 藤淵眞子
三段跳 優勝 山中真琴
七種競技 出場 圓城寺海穂

第79回京都府陸上競技選手権大会
男子
4×400mR 第5位 板倉・西山・竹内・三野
女子
400m 第6位 藤淵眞子
800m 第6位 藤淵眞子
第7位 吉住彩乃
4×100mR 第4位 飛川・山中・矢谷・伊藤
4×400mR 第5位 伊藤・吉住・西村・藤淵
三段跳 第2位 山中真琴
七種競技 第3位 圓城寺海穂
第5位 松本葉音

第77回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
女子
400m 出場 伊藤さつき
三段跳 第2位 山中真琴

第40回U20日本陸上競技選手権大会
女子
三段跳 第2位 山中真琴

日本グランプリシリーズ JAPAN TRACK & FIELD GRAND PRIXSERIES
第6回富士北麓ワールドトライアル2024
女子400m 第6位 伊藤さつき
女子三段跳 第6位 山中真琴

第57回京都府高等学校ユース陸上競技対校選手権
2年男子
400m 第6位 板倉大和
800m 第3位 板倉大和
第6位 小西琉偉
走幅跳 優勝 野崎凌聖
三段跳 第3位 柳田淳海
第6位 野崎凌聖

共通男子
4×400mR 第5位 板倉・野崎・和多田・井上

1年女子
100m 第7位 菱田楓恋
400m 優勝 吉住彩乃
第5位 西村優奈
800m優勝 吉住彩乃
第2位 西村優奈
100mH 第8位 菊岡 亜妃
走高跳 第4位 山本ほのか
走幅跳 第6位 飛川莉凜

2年女子
400m 第4位 藤淵眞子
800m 優勝 藤淵眞子

共通女子
4×100mR 第6位 飛川・菱田・岡本・藤淵
4×400mR 第5位 西村・吉住・田水・藤淵

第57回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会
2年男子
800m 出場 板倉大和
走幅跳出場 野崎凌聖

陸上部は中学生12人、高校生51人が所属しており、週に六日活動してきました。

全員が自分の目標に向かって練習に励んでおり、今年度は全国インターハイ出場・入賞、近畿インターハイ出場・入賞など大きな大会で結果を残すことができました。

来年度も良い結果を残せるよう、全員で謙虚に、自分の目標を明確にして練習を積んでいきたいと思えます。競技面だけでなく生活面でも、挨拶などの基本的なことを徹底して、学校全体から応援されるチームを目指して頑張ります。

陸上部

部長	野崎凌聖
前部長	松本葉音
中学部員数	12人
高校部員数	51人
顧問の先生	内田典子先生 田村陽佑先生 宮原京子先生

成績一覧	走幅跳 優勝 野崎凌聖
陸上部	第4位 柳田淳海
第59回京都府高等学校春季陸上競技大会	
男子	
800m 第2位 板倉大和	
4×400mR 第3位 三野・竹内・和多田・板倉	
走幅跳 第8位 野崎凌聖	
三段跳 第5位 柳田淳海	
女子	
400m 第2位 伊藤さつき	
800m 優勝 藤淵眞子	
第4位 吉住彩乃	
100mH 第6位 矢谷香穂	
400mH 第6位 圓城寺海穂	
4×400mR 第2位 伊藤・山中・吉住・藤淵	
三段跳 優勝 山中真琴	
円盤投 第7位 川上莉穂	
日本グランプリシリーズ 第4戦 広島大会	
グレード1	
第58回織田幹雄記念国際陸上競技選手権大会	
日本高校選抜	
女子三段跳	
優勝(大会新記録) 山中真琴	
第77回京都府高等学校総合体育大会(市内ブロック)	
2年男子	
400m 第2位 板倉大和	
110mH 第8位 八木廉太郎	
4×100mR 第5位 野崎・八木・和多田・小林	
3年男子	
100m 第7位 三野陽向	
800m 第3位 池田陸	
4×400mR 第5位 三野・西山・竹内・池田	
やり投 第5位 津田和輝	
1年女子	
100m 第5位 菱田楓恋	
第8位 岡本珠寶	
200m 第8位 村田愛海	
800m 優勝 吉住彩乃	
第3位 西村優奈	
1500m 第5位 西村小茉莉	
第6位 西川碧	
4×100mR 第3位 菱田・岡本・飛川・田水	
走高跳 第3位 山本ほのか	
第5位 田水美玖	
走幅跳 第4位 飛川莉凜	
円盤投 第7位 西田明香里	
2年女子	
400m 第2位 藤淵眞子	
3年女子	
400m 第2位 伊藤さつき	
100mH 第3位 矢谷香穂	
第8位 松本葉音	
4×100mR 第2位 圓城寺・山中・矢谷・伊藤	
走高跳 第6位 井上咲奈	
走幅跳 第3位 圓城寺海穂	
三段跳 優勝 山中真琴	

やり投 第4位 第7位	川上莉穂 西田明香里	兼 近畿中学校総合体育大会陸上競技の部 予選会
第15回エコパトラックゲームズ		女子四種競技 第4位 犬嶋唯佳
A女子 400m 出場	伊藤さつき	女子100mH 第8位 長谷川和泉
B女子 400m 出場	藤淵眞子	女子800m 第5位 國長早希
女子4×100mR 出場	飛川・菱田・岡本・村田	第77回京都市中学校秋季体育大会
女子4×400mR 出場	藤淵・岡本・西村優・吉住	陸上競技の部
混合4×400mR 第3位	板倉・伊藤・藤淵・和多田	女子100mH 第3位 長谷川和泉
第77回京都市中学校春季総合体育大会		女子800m 第8位 國長早希
陸上競技の部		第24回京都陸協 京都府中学校秋季陸上競技大会
女子100mH 第5位	犬嶋唯佳	女子四種競技 第5位 犬嶋唯佳
第77回京都市中学校選手権総合体育大会		女子100mH 第7位 長谷川和泉
陸上競技の部		第76回京都府私立中高総合体育大会
兼 第77回京都府中学校総合体育大会		中学男子
陸上競技の部予選会		400m 第7位 絹笠楓都
女子四種競技 第4位 犬嶋唯佳		4×100mR 第8位 稲岡・伊勢田・神田・早田
女子100mH 第6位 長谷川和泉		中学女子
女子800m 第6位 國長早希		100m 第6位 稲葉緑子
第70回全日本中学校通信陸上競技大会京都府大会		第8位 中路灯
女子四種競技 第6位 犬嶋唯佳		200m 第1位 長谷川和泉
女子100mH 第7位 犬嶋唯佳		第2位 犬嶋唯佳
第41回京都府中学校四種競技大会		800m 第2位 國長早希
女子四種競技 第7位 犬嶋唯佳		第10回京都府中学オータムカップ
第77回京都府中学校総合体育大会		陸上競技大会
陸上競技の部		女子100mH 第5位 犬嶋唯佳
		第7位 長谷川和泉
		女子100m 第8位 稲葉緑子

三段跳 出場	柳田淳海	第18回U18陸上競技大会
共通男子		男子800m 出場 板倉大和
4×400mR 出場	板倉・野崎・和多田・井上	女子800m 第6位 藤淵眞子
1年女子		第21回田島直人記念陸上競技大会
400m 第8位 吉住彩乃		女子三段跳 第5位 山中真琴
800m 第4位 吉住彩乃		第76回京都府私立中高総合体育大会
第6位 西村優奈		高校男子
2年女子		200m 第3位 和多田響
800m 第3位 藤淵眞子		第7位 小林潤也
共通女子		400m 第2位 板倉大和
4×100mR 出場	飛川・菱田・岡本・村田	800m 第1位 板倉大和
4×400mR 出場	藤淵・吉住・西村優・西村小	第3位 小西琉偉
第59回京都府高等学校ジュニア陸上競技対校選手権大会		1500m 第6位 井上功大
男子		第8位 上村朔太郎
400m 第2位 板倉大和		110mH 第5位 八木廉太郎
第8位 和多田響		第8位 今井元道
800m 優勝 板倉大和		400mH 第3位 中山龍登
第5位 小西琉偉		第7位 田村康太郎
1500m 第6位 小西琉偉		4×100mR 第7位 野崎・八木・和多田・小林潤也
110mH 第8位 八木廉太郎		走高跳 第2位 野村旭陽
4×400mR 第7位 板倉・小西・和多田・井上		走幅跳 第3位 野崎凌聖
走高跳 第7位 野村旭陽		三段跳第4位 柳田淳海
走幅跳 第5位 野崎凌聖		第8位 内藤誠道
三段跳 第4位 柳田淳海		高校女子
第6位 野崎凌聖		100m 第5位 菱田楓恋
女子		200m 第4位 岡本珠宝
200m 第8位 岡本珠宝		400m 優勝 伊藤さつき
400m 第2位 藤淵眞子		第3位 西村優奈
第5位 吉住彩乃		優勝 藤淵眞子
第6位 西村優奈		800m 第2位 吉住彩乃
800m 優勝 藤淵眞子		100mH 第3位 矢谷香穂
第3位 吉住彩乃		400mH 第4位 田水美玖
第6位 西村優奈		第6位 村田愛海
4×100mR 第4位 飛川・菱田・岡本・藤淵		4×100mR 第3位 圓城寺・山中・矢谷・伊藤
4×400mR 第2位 藤淵・岡本・西村・吉住		走高跳 第2位 山本ほのか
第78回国民スポーツ大会		第4位 菊岡亜妃
少年女子共通		走幅跳 優勝 圓城寺海穂
三段跳 第3位 山中 真琴		第3位 飛川莉凜
		三段跳 優勝 山中真琴
		第2位 圓城寺海穂
		砲丸投 第4位 松本葉音
		第6位 御厨深月
		円盤投 第5位 川上莉穂
		第6位 西田明香里

第92回京都府高等学校選手権水泳競技大会
兼 第78回近畿高等学校選手権水泳競技大会
予選会

【男子】

400m自由形 第2位 山中柊亮

【女子】 総合第3位

50m自由形 第3位 森奈生

100m自由形 第3位 森奈生

100m背泳ぎ 優勝 重藤菜

第2位 喜多雪乃

100m平泳ぎ 第3位 瀬戸口柚花

200m平泳ぎ 第3位 瀬戸口柚花

200m個人メドレー 第2位 塚本結衣

400m個人メドレー 第2位 塚本結衣

4×100mメドレーリレー 第3位

重藤・瀬戸口・塚本・森

※上記の入賞種目を含め、個人男子6種目、
女子19種目、リレー男子2種目、女子3種
目において近畿大会へ出場

令和6年度京都市中学校夏季選手権大会水泳
競技の部

【男子】

400m個人メドレー 第4位 武田海祐

【女子】

400m個人メドレー 第3位 横山友美

令和6年度京都夏季選手権水泳競技大会
兼 全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季
選手権大会京都府予選会

【高校男子】

E200m自由形 第3位 山中柊亮

E100m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉

E200m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉

【高校女子】

E50m自由形 第3位 森奈生

E100m自由形 第3位 森奈生

E100m背泳ぎ 優勝 重藤菜

第2位 喜多雪乃

E200m背泳ぎ 第3位 喜多雪乃

E400m個人メドレー 第3位 塚本結衣

DE4×100mフリーリレー 第3位

森・杉本・江角・北角

【中学女子】

C200m個人メドレー 第2位 横山友美

第78回近畿高等学校選手権水泳競技大会
兼 第92回日本高等学校選手権水泳競技大会
近畿ブロック予選会

【女子】

200m平泳ぎ 第10位 瀬戸口柚花

4×100mメドレーリレー 第8位

重藤・瀬戸口・塚本・森

※上記2種目において日本高等学校選手権水
泳競技大会へ出場

令和6年度第77回京都府中学校総合体育大会
水泳競技の部

【女子】

200m個人メドレー 第4位 横山友美

400m個人メドレー 第3位 横山友美

※上記2種目において近畿大会へ出場

第76回近畿中学校選手権水泳競技大会

【女子】

200m個人メドレー 出場 横山友美

400m個人メドレー 出場 横山友美

第92回日本高等学校選手権水泳競技大会
令和6年度全国高等学校総合体育大会
水泳競技大会

【女子】

200m平泳ぎ 出場 瀬戸口柚花

4×100mメドレーリレー

出場 重藤・瀬戸口・塚本・森

第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ
夏季水泳競技大会

【女子】

15-16歳100m平泳ぎ 出場 瀬戸口柚花

15-16歳200m平泳ぎ 出場 瀬戸口柚花

令和6年度京都市中学校秋季総合体育大会
水泳競技の部

【男子】

50m自由形 第2位 中河真大

100m自由形 第3位 中河真大

【女子】

200m個人メドレー 第2位 横山友美

400m個人メドレー 優勝 横山友美

4×50mフリーリレー 第2位

榎・横山・高屋・竹川

第63回京都府高等学校水泳競技新人大会
兼 近畿高等学校新人水泳競技大会京都府
予選会

【男子】

200m背泳ぎ 第3位 山本大地

50m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉

100m平泳ぎ 優勝 藤森翔琉

200m平泳ぎ 優勝 藤森翔琉

私たち水泳部は中学生11名、高校生37名
計48名で活動をしています。
週6の活動で日々練習しています。練習
は厳しいですがみんなで盛り上げ、励まし
合っています。
今年度は新型コロナウイルスの影響を受
けず普段通りの練習や合同合宿、試合での
マスク無しの応援をすることが出来ました。
近畿大会では、女子がインターハイ標準記
録を突破し出場することができました。
これはチームにとって大きな一歩になっ
たと思います。
これからチーム一丸となり更に上を目指
して頑張っていきます。これからも応援よ
ろしくお願いします。



部長	藤森翔琉
前部長	水内琴音 野中隆喜 重藤菜
中学部員数	11人
高校部員数	37人
顧問の先生	宇野慎也先生 岡田明成先生 三好弘晃先生 平井妃翠先生

成績一覧
水泳部
令和6年度京都春季選手権水泳競技大会

【高校男子】

E200m背泳ぎ 第3位 尾田琉碧

【高校女子】

E100m自由形 第3位 森奈生

E50m背泳ぎ 第2位 喜多雪乃

E100m背泳ぎ 優勝 重藤菜

E200m背泳ぎ 第3位 重藤菜

E100m平泳ぎ 第3位 瀬戸口柚花

E200m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花

【中学男子】

D50m平泳ぎ 第3位 中野晴仁

第32回近畿私立中学高等学校水泳競技大会

【高校女子】

100m平泳ぎ 第4位 瀬戸口柚花

200m平泳ぎ 第5位 瀬戸口柚花

【中学男子】

200m平泳ぎ 第3位 中野晴仁

200m個人メドレー 第5位 武田海祐

【中学女子】

200m平泳ぎ 優勝 横山友美

200m個人メドレー 第2位 横山友美

第77回京都府高等学校総合体育大会水泳競技
大会

【男子】 総合第5位

200m自由形 優勝 山中柊亮

400m自由形 第3位 山中柊亮

1500m自由形 第2位 竹井優思

【女子】 総合第2位

50m自由形 優勝 森奈生

100m自由形 優勝 森奈生

100m背泳ぎ 優勝 重藤菜

200m背泳ぎ 第2位 重藤菜

200m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花

200m個人メドレー 第3位 塚本結衣

400m個人メドレー 優勝 塚本結衣

4×100mフリーリレー 第3位

北角・森・杉本・江角

4×100mメドレーリレー 優勝

重藤・瀬戸口・塚本・森

令和6年度京都選手権水泳競技大会
SAGA2024国スポ京都府代表選手選考会

【男子】

1500m自由形 第7位 竹井優思

【女子】

100m背泳ぎ 第6位 重藤菜

200m背泳ぎ 第6位 重藤菜

100m平泳ぎ 第5位 瀬戸口柚花

200m平泳ぎ 第4位 瀬戸口柚花

200m個人メドレー 第5位 塚本結衣

400m個人メドレー 第4位 塚本結衣

令和6年度京都市中学校春季総合体育大会
水泳競技の部

【男子】

100m自由形 第3位 中河真大

200m平泳ぎ 第2位 中野晴仁

400m個人メドレー 第2位 武田海祐

【女子】

200m個人メドレー 第2位 横山友美

4×100mフリーリレー 優勝 森・瀬戸口・北角・塚本	坂本菜々美・松田莉歩（京都踏水会水泳学園）
第17回天理スプリント水泳競技大会 【12月22日】	令和6年度近畿高等学校選手権水泳競技大会 アーティスティックスイミング競技
令和6年度新年フェスティバル水泳競技大会 【1月13日】	【ソロ競技】 第4位 坂本菜々美
令和6年度京都短水路選手権水泳競技大会 【1月26日】	【第78回国民スポーツ大会近畿ブロック大会】 優勝 坂本菜々美（京都府）
第100回日本選手権水泳競技大会 アーティスティックスイミング競技	日本アーティスティックスイミング チャレンジカップ2024
【ソロ テクニカル】 第4位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	【チームテクニカルルーティン】 第3位 坂本菜々美・松田莉歩（京都踏水会水泳学園）
【デュエットテクニカル】 第5位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	【デュエットフリールーティン】 第2位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）
【デュエットフリー】 第6位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	【フリーコンビネーション】 第2位 坂本菜々美・松田莉歩（京都踏水会水泳学園）
【チームテクニカル】 第5位 坂本菜々美・ 松田莉歩（京都踏水会水泳学園）	第47回全国JOC夏季水泳競技大会 アーティスティックスイミング競技の部
【チームフリー】 第5位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	【15-18歳区分】 ソロテクニカル・フリールーティン 第2位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）
【アクロバティックルーティン】 第6位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	デュエットテクニカル・フリールーティン 優勝 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）
2024年度関西選手権水泳競技大会 アーティスティックスイミング競技	優秀選手受賞 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）
【デュエットテクニカルルーティン】 第3位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	【13-15歳区分】 チーム競技 優勝 松田莉歩（京都踏水会水泳学園）
【デュエットフリールーティン】 第2位 坂本菜々美（京都踏水会水泳学園）	第69回日本泳法大会 【横泳ぎ競泳女子の部】 優勝 杉本琴虹（京都踏水会水泳学園）
【チームテクニカルルーティン】 第2位 坂本菜々美・松田莉歩（京都踏水会水泳学園）	【支重競技女子の部】 優勝 杉本琴虹（京都踏水会水泳学園）
【チームフリールーティン】 第2位	




【女子】 総合第2位 50m自由形 第2位 森奈生 50m背泳ぎ 優勝 喜多雪乃 第2位 塚本結衣 100m背泳ぎ 優勝 喜多雪乃 200m背泳ぎ 第2位 喜多雪乃 50m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花 100m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花 200m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花 4×100mフリーリレー 第3位 森・北角・瀬戸口・水内	100m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉
4×100mメドレーリレー 第3位 喜多・瀬戸口・塚本・森	【高校女子】 総合第2位 100m自由形 第2位 森奈生 100m背泳ぎ 第2位 塚本結衣 200m個人メドレー 第2位 塚本結衣 4×50mフリーリレー 第2位 森・北角・喜多・塚本
※上記の入賞種目を含め、個人男子5種目、 女子9種目、リレー男子2種目、女子2種 目において近畿高校新人大会へ出場。	4×50mメドレーリレー 第2位 喜多・塚本・眞下・森
第13回京都ジュニアチャレンジスイムミート 【男子】 E100m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉	【中学男子】 100m自由形 第3位 中河真大
【女子】 E100m背泳ぎ 第2位 喜多雪乃 E200m個人メドレー 優勝 塚本結衣 第2位 瀬戸口柚花	【中学女子】 総合第3位 50m平泳ぎ 第3位 横山友美 200m個人メドレー 第2位 横山友美 4×50mフリーリレー 第3位 横山・樫・高屋・竹川
第8回近畿高等学校新人水泳競技大会 【男子】 100m平泳ぎ 第3位 藤森翔琉	4×50mメドレーリレー 第3位 樫・竹川・横山・高屋
【女子】 100m平泳ぎ 第4位 瀬戸口柚花	令和6年度京都府高等学校秋季室内水泳競技 大会
第39回京都地域クラブ対抗戦水泳競技大会 【高校男子】 E100m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉 E200m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉	【男子】 50m平泳ぎ 優勝 藤森翔琉
【高校女子】 E50m背泳ぎ 第2位 重藤菜 E100m背泳ぎ 第2位 喜多雪乃 E100m平泳ぎ 第3位 瀬戸口柚花 E200m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花 E100mバタフライ 第3位 眞下凜子 E200m個人メドレー 第2位 塚本結衣 E4×100mメドレーリレー 第2位 重藤・瀬戸口・塚本・森	【女子】 100m自由形 第2位 瀬戸口柚花 400m自由形 第3位 瀬戸口柚花 100mバタフライ 優勝 塚本結衣 第2位 眞下凜子 200m個人メドレー 優勝 瀬戸口柚花 4×50mフリーリレー 第3位 森・瀬戸口・喜多・北角
【中学女子】 D200m平泳ぎ 第2位 横山友美	4×50mメドレーリレー 第3位 喜多・瀬戸口・眞下・森
第72回京都府私立中学高等学校総合体育大会 水泳競技大会	第3回いずみ210 OPEN水泳競技大会
【高校男子】	【高校男子】 100m平泳ぎ 第2位 藤森翔琉 200m平泳ぎ 第3位 藤森翔琉
	【高校女子】 50m自由形 第3位 森奈生 100m背泳ぎ 第2位 喜多雪乃 200m背泳ぎ 第3位 喜多雪乃 100m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花 200m平泳ぎ 第2位 瀬戸口柚花 200m個人メドレー 第3位 塚本結衣 400m個人メドレー 第3位 塚本結衣 4×100mメドレーリレー 優勝 喜多・瀬戸口・塚本・森

100kg級 準優勝	山口琥太郎	無差別級 第3位	野添莞司
100kg級 優勝	海島帝龍	第3位	海島帝龍
令和6年度京都府高等学校柔道選手権大会 (個人試合)		48kg級 優勝	山本和愛
兼 第47回全国高等学校柔道選手権大会 (個人試合) (令和6年12月14日)		52kg級 第3位	松井綺星
会場：京都市武道センター		57kg級 準優勝	澤井日和
男子個人		63kg級 優勝	森脇花乃
60kg級 第3位	中西大輝、橋爪利仁	無差別級 準優勝	浅野有希
73kg級 優勝	日垣翔心	第3位	阿部円香

私たちがソフトテニス部は男子28名、女子7名で、京都一位になり、チームでインターハイ出場を目標に日々練習に励んでいます。その為に、先生のご指導のもと更なる向上を求めて、毎日の練習を大切にし、どんな時でもチーム全員で声を出し、技術面だけでなく、挨拶や礼儀など精神面も同様に向上していきたいと思えます。また、保護者やお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに結果を残して恩返しができると思えます。

これからの全員で一つの目標に向かって突き進んでいきます。

ソフトテニス部



部長	藤田悠
前部長	小杉優太
中学部員数	0人
高校部員数	35人
顧問の先生	本庄俊明先生 山崎太一先生 岩間篤美先生


成績一覧

ソフトテニス部	2回戦 京都文教③-0桂
令和6年度京都府高校総体中ブロック予選	決勝リーグ
個人戦	1回戦 京都文教③-0鳥羽
【女子】	2回戦 京都文教②-1龍谷大平安
優勝	女子 Bゾーン優勝
準優勝	予選リーグ
ベスト8	1回戦 京都文教③-0京産大附属
ベスト16	2回戦 京都文教③-0立命館
【男子】	決勝リーグ
ベスト8	1回戦 京都文教②-1龍谷大平安
ベスト8	2回戦 京都文教②-1京都成章
ベスト16	令和6年度京都府高等学校
ベスト16	ソフトテニス選手権大会個人戦
ベスト16	【女子】
ベスト16	ベスト32 安原・辻川
令和6年度京都府高等学校	ベスト32 三寺・堀
ソフトテニス選手権大会団体戦南部予選	ベスト32 富田・福井
男子 Aゾーン優勝	準優勝 坂手・小杉
予選リーグ	第5位 大野・小島
1回戦 京都文教③-0桃山	ベスト16 九嶋・新藤

柔道部は、全員が一致団結し一人一人が常に高い目標を持って日々練習に励んでいます。

また、お世話になつていらっしゃる方々への感謝の心を忘れず、皆さんから応援してもらえようというチームを目指しています。ここ数年で、個人戦では全国大会で結果を残せるようになってきましたが、団体戦では今年の夏の大会では男女共にあと一歩という悔しい結果に終わってしまいました。なので、来年は男女共に全国大会に出場できるように頑張ります。これからも柔道部の応援をよろしくお願ひします。

柔道部



部長	日垣翔心
前部長	中前陽介
中学部員数	7人
高校部員数	32人
顧問の先生	下野龍司先生 武用諒先生 岡田先生

成績一覧

柔道部	小池 琥太郎、安田 輝希
令和6年度全国高等学校総合体育大会	令和6年度京都府中学校総合体育大会
柔道競技	柔道競技
男子	個人52kg級 優勝 織田佳々乃
100kg超級 第5位 大堀雄大	個人90kg級 第3位 安田輝希
女子	令和6年度京都府中学校総合体育大会
48kg級 1回戦敗退 濱口真帆	柔道競技
70kg級 1回戦敗退 千田梨瑚	男子団体 第3位 田中琉馬、川淵大心
78kg級 1回戦敗退 浅野友希	中元馨太、中村真洗、小池琥太郎、安田輝希
京都府高校総体	令和6年度京都市中学校秋季大会個人試合
男子 上級一部 優勝	会場：京都市立桂中学校
下級 優勝	90kg級 優勝 小池琥太郎
女子団体 1部 第三位	73kg級 優勝 中村真洗
2部 優勝 (文教Aチーム)	50kg級 第3位 川淵大心
準優勝 (文教Bチーム)	令和6年度京都市中学校秋季大会団体試合
京都府私学体育大会	第2位 田中琉馬、川淵大心
男子団体 準優勝	中元馨太、中村真洗、小池琥太郎
女子団体 優勝	令和6年度京都府高等学校柔道選手権大会
令和6年度全国中学校総合体育大会柔道競技	(個人試合)
52kg級 1回戦敗退 織田佳々乃	兼 第66回近畿高等学校柔道新人大会
令和6年度京都市中学校春季総合体育大会	(個人試合) 京都府予選
柔道競技の部	会場：京都市武道センター
90kg級 準優勝 安田輝希	48kg級 準優勝 山本和愛
1回戦敗退 小池琥太郎	63kg級 準優勝 村上真子
48kg級 準優勝 織田佳々乃	63kg級 優勝 澤井日和
京都市中学校選手権総合体育大会柔道競技	78kg級 準優勝 阿部円香
52kg級 優勝 織田佳々乃	78kg級 優勝 浅野有希
90kg級 第3位 安田輝希	60kg級 第3位 橋爪利仁
京都市中学校選手権総合体育大会柔道競技	60kg級 準優勝 中西大輝
73kg級 第3位 安田輝希	73kg級 第3位 橋爪利温
男子団体 第3位	73kg級 準優勝 吉田陽翔
田中琉馬、川淵大心、中元馨太、中村真洗	73kg級 優勝 日垣翔心
	90kg級 第3位 野添莞司

僕達硬式野球部は、二年生16人一年生12人の部員28人で活動しています。昨夏悔しい負け方をしています。また今秋はベスト8という結果に終わってしまい目標としていたベスト4には届きませんでした。ベスト4にいくために今チームでは「一体感」をテーマにし日々練習に取り組んでいます。また野球を通していく中で人としても成長していくという「人間形成」の部分も大切にしています。野球をできる環境を作ってください。張りますので応援よろしくお願います。

硬式野球部



部長 加藤隆平
 前部長 森本晴貴
 中学部員数 0人
 高校部員数 40人
 顧問の先生 林守先生
 加藤周平先生
 土井拓哉先生
 木田邦浩先生

成績一覧

硬式野球部

令和6年度春季京都府高校野球大会
 一次戦 一回戦
 北桑田高校 9対0 (7回コールド) 勝ち
 二回戦
 工学院高校 10対3 (8回コールド) 勝ち
 ゾーン決勝 西城陽高校 1対3 負け
 第106回全国高等学校野球選手権京都大会
 二回戦 京都すばる高校 2対9 負け

令和6年度秋季京都府高校野球大会

一回戦
 嵯峨野高校 4対3 (延長10回TB) 勝ち
 二回戦 洛水高校 9対4 勝ち
 三回戦 同志社国際高校 6対2 勝ち
 四回戦
 城陽高校 12対1 (8回コールド) 勝ち
 準々決勝
 龍谷大平安 0対10 (5回コールド) 負け
 *ベスト8

僕たち軟式野球は、月、火、水、金、土曜日に活動しています。チームスローガンは「考動」です。野球を通して考える力を身につけることを目標に強いチームを目指して練習しています。月曜日は自分の足りないところに対して自主練習メニューを行います。火曜日以降は守備練習や走塁練習、バッティング等チーム全体で練習します。春、夏、秋に公式戦があり、さらに私学大会があります。今年の夏の大会では、一勝挙げることができました。全員が協力し合い、試合に勝てるチームとなるよう一丸となって練習をしています。

軟式野球部



部長 津久間侑真
 前部長 南翔空
 中学部員数 17人
 高校部員数 0人
 顧問の先生 山本翔也先生
 杉田千紗先生

成績一覧

軟式野球部

第73回京都市中学校野球春季大会
 一回戦 高野・近衛中学校合同チーム
 0対10 (4回コールド) 負け

第78回京都市中学校野球選手権大会

一回戦 旭ヶ丘中学校 5対3 勝ち
 二回戦
 洛南中学校 0対7 (5回コールド) 負け
 令和6年度京都府私立中学校総合体育大会
 一回戦 京都共栄中学校 0対8 負け

令和6年度京都府高等学校ソフトテニス選手権大会団体戦

【女子】 団体戦 第3位
 2回戦 京都文教③-0久御山
 準々決勝 京都文教②-1西城陽
 準決勝 京都文教0-②京都光華
 【男子】 団体戦 準優勝
 2回戦 京都文教③-0西京
 準々決勝 京都文教②-0龍谷大平安
 準決勝 京都文教②-0紫野
 決勝 京都文教0-②福知山成美

令和6年度近畿高等学校ソフトテニス選手権大会

【個人戦】 3回戦敗退 坂手・小杉
 2回戦敗退 大野・小島
 1回戦敗退 九嶋・新藤

【団体戦】 男子 ベスト16
 1回戦 京都文教③-0阪南大学
 2回戦 京都文教②-1網干
 3回戦 京都文教1-②神戸国際
 女子 ベスト16
 1回戦 京都文教③-0河南
 2回戦 京都文教②-0高田
 3回戦 京都文教0-②和歌山信愛

令和6年度全国高等学校ソフトテニス選手権大会ソフトテニス競技

【個人戦】 4回戦敗退 坂手・小杉
 2回戦 ④-0霞ヶ浦
 3回戦 ④-1松江工業
 4回戦 1-④北越
 2回戦敗退 大野・小島
 1回戦 ④-1甲府商業
 2回戦 1-④東北

令和6年度京都府高等学校ソフトテニス選抜個人戦中ブロック予選

【男子】 優勝 藤田・青山
 準優勝 片山・宮川

ベスト8 福田・矢作
 ベスト8 永井・和田
 ベスト8 森田・尾崎
 ベスト8 向山・石田
 ベスト16 水田・本村
 ベスト16 今堀・山口
 ベスト16 城野・尹
 ベスト16 本多・足立
 ベスト16 堀・安田

令和6年度京都府高等学校ソフトテニス選抜個人戦

【男子】 ベスト16 藤田・青山
 ベスト16 片山・宮川
 ベスト16 福田・矢作
 ベスト16 堀・安田
 ベスト32 永井・和田
 ベスト32 水田・本村
 ベスト32 今堀・山口

令和6年度京都府高等学校ソフトテニス選抜団体戦南部予選

【男子】 Aゾーン 優勝
 予選リーグ
 1回戦 京都文教③-0菟道
 2回戦 京都文教③-0塔南・開建
 決勝リーグ
 1回戦 京都文教③-0城陽
 2回戦 京都文教③-0嵯峨野

令和6年度京都府高等学校ソフトテニス選抜団体戦

【男子】 第3位
 1回戦 京都文教③-0丹後緑風
 2回戦 京都文教②-0亀岡
 決勝リーグ
 1回戦 京都文教②-1紫野
 2回戦 京都文教0-③西城陽
 3回戦 京都文教0-③福知山成美

2回戦 京都文教0-③花園
結果：京都府ベスト16

加藤倅太・西元大智・綾城正芳
大野康太・佐藤幹太・増川大介・仙石暢

卓球部



部長 服部晟大
前部長 田中奏斗
中学部員数 6人
高校部員数 15人
顧問の先生 北尾千春先生
馬淵瑞穂先生
福埜裕先生

私たち卓球部は、高校・中学生合わせて21人の部員で日々活動しております。基本的には週5回、第2体育館で活動しております。毎日コーチからの指導をいただきます。基礎練習をはじめ、団体練習やゲーム練習など本番を想定した練習に励んでおります。本年度から練習試合を増やし、結果を糧に課題を見つけ、各自練習に取り組んでおります。最近では生徒を中心に練習内容を考える様になります。卓球部の今の目標は公式戦でベスト8に入ることなのでこれからも頑張っていきたいです。

成績一覧

卓球部

第76回京都府私立中高総合体育大会卓球の部
中学男子 団体 3位 村上・瀬見井
辻・水野
高校男子 団体 5位 服部・山口・織田
渡邊・吉田・宮村・小島・田中

京都市春季総合体育大会個人の部

全市決勝大会 出場 村上・瀬見井
京都市中学校選手権総合大会個人の部
全市決勝大会 出場 村上・瀬見井
秋季卓球大会 1次予選 男子シングルス
4回戦進出 織田陽太郎
3回戦進出 服部晟大・山口結之・渡邊惇生
宮村智也・小島蒼生
女子シングルス 3回戦進出 秋山ゆずな

女子バスケットボール部



部長 上村みのり
前部長 徳島しおり
中学部員数 0人
高校部員数 9人
顧問の先生 西別府秀史先生
重政直弥先生
中島純一先生

私たち女子バスケットボール部は二年生4人、一年生1人のプレーヤーと二年生1人のマネージャー計6人で日々楽しく熱心に活動しています。顧問の先生方や外部コーチに教わっています。日々の練習メニューは自分たちで考え、真面目に一生懸命練習しています。人数が少なく、やりたいプレーがかぎられています。OGの方々に来てくださったり、たくさんの人たちに助けられて活動しています。日々感謝の気持ちを忘れずに、頑張っていきたいと思えます。

成績一覧

女子バスケットボール部

令和6年度全国高等学校総合体育大会京都府

予選 兼 第71回近畿高校バスケットボール大会
京都府予選市部代表決定戦 出場
2024年度私学バスケットボール大会 出場

剣道部



部長 檜山謙伸
前部長 勝村凌久
中学部員数 3人
高校部員数 11人
顧問の先生 戸田和真先生
酒井祐斗先生
松本成裕先生

剣道部は高校生7名、中学生3名で活動しています。高校生から剣道を始めた人は4名で段位審査や錬成会を始め公式戦では近畿大会出場を目指して稽古に励んでいます。稽古では技術向上のために工夫した稽古をし、意見を出し合い限られた時間の中で切磋琢磨しています。その工夫があり私学大会では3位に入賞し、確実に成長をしていると実感しました。稽古を頑張るのももちろんですが私たち剣道部は文武両道を目指し試験1週間前に休みを取り勉強にも取り組んでいます。部員を増やし、団体で近畿大会出場に向けて精進努力していきます。

成績一覧

剣道部

令和6年度全国高等学校総合体育大会京都府予選会(第62回近畿大会京都府予選会)
男子団体 ベスト32 勝村・松山・平井
桐村・檜山・三浦・米倉
令和6年度京都府私学中学高等学校総合体育大会剣道の部
男子団体 第3位 チョウドリ・米倉

柿川・三浦・檜山・松山・川部
令和6年度京都市中学校春季総合体育大会
剣道競技
女子個人 ベスト32 水原千香子
令和6年度段位審査合格者
三段：勝村凌久・桐村拓己・檜山謙伸
柿川諒芽・三浦大空
二段：水原千香子
初段：川部時生・チョウドリ凜部
松山侑生・米倉拓海・速水翔永

バドミントン部



部長 加藤倅太
前部長 鈴木秀晃
中学部員数 11人
高校部員数 52人
顧問の先生 竹本真也先生
竹内裕子先生
道端宗昭先生

私たちバドミントン部は、基本週6日活動しており、西村コーチや竹本先生のご指導のもと団体戦では京都ベスト16に入るなどの実績を残しています。練習ではお互いに協力し合いながら、大会で良い結果を残せるよう日々努力をしています。継続する大切さや仲間と支え合うことで成長を感じられることがやりがいです。初心者や経験者みんな協力して、さらに良い成績を残せるよう練習を重ねます。

成績一覧

バドミントン部

2024年度第75回全国高等学校バドミントン選手権大会京都府予選会個人戦
府下大会進出 男子ダブルス
今江航志・岡島佑一郎ペア

鈴木秀晃・米田優作ペア
2024年度京都府高等学校バドミントン新人大会学校対抗戦
予選 Fブロック 第2位 決勝トーナメント進出
決勝トーナメント
1回戦 京都文教③-2 嵯峨野

向陽・京都文教0-11京都西山
以上、結果ベスト4
令和6年度全国高等学校総合体育大会（サッ

カー競技-女子-）京都府予選 兼 第77回
近畿高等学校サッカー選手権大会京都府予選
京都翔英高等学校1-0向陽・京都文教

例えば、サッカートレーニングでは試合を意識しながら相手がどこにいるかなどを把握し、強度の高いトレーニングをしています。
そのトレーニングとは、練習と練習の間でラントレーニングをし、日々体力向上をしています。このように楽しい練習だけではなく体力面、技術面で厳しい練習をしています。
このように楽しい練習だけではなく厳しい練習を京都文教高校サッカー部はしています。

僕たち京都文教高校サッカー部は全国大会出場に向けて日々頑張っています。

男子サッカー部



部長 久保田陽晴
前部長 宮本祐太郎
中学部員数 0人
高校部員数 38人
顧問の先生 加藤潤先生
棚橋寛一先生

成績一覧

男子サッカー部
令和6年度京都府高等学校総合体育大会
京都文教2-4洛西高校
令和6年度全国高等学校総合体育大会
男子サッカー競技京都府予選2回戦
京都文教0-3朝鮮高校
高円宮杯JFAU-18サッカーリーグ2024京都(U-18リーグ京都) 4部公式戦
京都文教0-4京都先端高校

京都文教0-3翔英高校
京都文教0-4山城高校B
京都文教0-12久御山高校B
京都文教6-2宮津天橋高校
京都文教2-0日吉ヶ丘高校
京都文教0-6乙訓高校
第103回全国高等学校サッカー選手権大会
京都大会
京都文教0-5北稜高校
京都高等学校サッカー新人大会2回戦
京都文教 朝鮮高校

バトン部



部長 廣瀬羽咲
前部長 廣瀬結奈
中学部員数 0人
高校部員数 11人
顧問の先生 川村一之先生
須田令子先生
堀南々帆先生

私達バトン部は高校生11名で練習に励んでいます。今年は2つのチームに分かれてBチームは「レイダース・マーチ」、Aチームは「Great Spirit」というテーマで関西大会に出場しました。その結果Aチームは関西大会において8位で全国大会への推薦を頂きました。また、全国大会で金賞を頂くことができました。私達は1つの作品を全員で創り上げる達成感、仲間と協力することの大切さを学びました。
これからも支えて下さる先生方、保護者の方作品を創って下さるコーチの方への感謝を忘れずに練習に励みます。

成績一覧

バトン部

第49回京都府高等学校バトントワリングコンテストバトンの部 金賞

第44回京都府高等学校バスケットボール選手権大会 兼 第77回全国高等学校バスケット

ボール選手権大会京都府予選市部代表決定戦
出場

女子バレーボール部



部長 森島璃世
前部長 山崎玲那
中学部員数 0人
高校部員数 8人
顧問の先生 松本大介先生
中川真由美先生
西村忠泰先生

バレー部は週に5日活動しています。現在は一年生が2人、二年生が6人と少ない人数ながら互いに助け合い、楽しく部活動を行っています。練習では基礎練習を中心に初心者も経験者もみんなで一緒に練習しています。体力、筋力づくりのために毎週月金は筋トレをし、平安神宮の周りの疎水を走っています。10月に開催された春高予選では残念ながら一回戦敗退でしたが前回の大会で負けてしまった高校に勝つことができました。チームワークが大切な競技なのでみんなで絆を深めてもっと勝ち進んでいけるように頑張りたいと思います。

成績一覧

女子バレーボール部
令和6年度京都府高等学校総合体育大会
京都文教0-2京都翔英 予選敗退
令和6年度全国高等学校総合体育大会バレーボール競技の部 京都南部予選リーグ戦
京都文教0-2西城陽高校
京都文教1-2廣学館高校
京都文教0-2京都外大西高校
※0勝3敗で予選敗退

令和6年度京都私学大会

京都文教0-2京都産業大学附属高校
京都文教0-2京都聖母女学院高校
※予選敗退
令和6年度全日本バレーボール高等学校選手権大会京都府南部予選リーグ戦
京都文教0-2京都すばる高校
京都文教0-2聖カタリナ高校
京都文教2-1廣学館高校
※1勝2敗で予選敗退

女子サッカー部



部長 高橋みう
前部長 古今友菜
中学部員数 0人
高校部員数 2人
顧問の先生 松木肇先生
仲井真弓先生

女子サッカーは木曜日と日曜日を除く週5日活動しています。
部員は2人ですが、松木先生と共に練習していました。2人の時は、パスやゴロ・ロングの練習等をして、先生と共に練習する時は、三角形パスやシュート練習、1対2などを行いました。
この1年間で私たちは、友情の深化を感じる事が出来ました。試合や練習を共にしていく中で、厳しい練習の時も励まし合いながら、お互いの成長を身近に感じ協力することで一人一人のサッカー技術を上げることが出来ました。

成績一覧

女子サッカー部

第33回全日本高等学校女子サッカー選手権大会京都府大会 兼 令和6年度京都府高等学校女子サッカー選手権大会

池坊部は毎週金曜日で活動しています。花に囲まれながら、それぞれの花の特徴を上手く引き出せるように日々精進しています。今年の花の甲子園という生花の大会に作品を出品しました。今年のテーマは『今の私』というものでした。私たち高校生は様々な事を学んでいる最中であり、『自分とはどんな存在なのか?』を日々悩みながら生活しています。そんな中で作品制作は難しいものがありますが、作品を完成させ、大会に出品する事が出来ました。今後も今回の制作や池坊部での活動から学んだ事を活かせるよう、日々稽古を重ねます。

池坊部

部長	深見綾音
前部長	奥田胡春
中学部員数	1人
高校部員数	5人
顧問の先生	西村正和先生

成績一覧

池坊部
Ikenobo花の甲子園 予選 敢闘賞

私達吹奏楽部は中高合わせ総勢50人で活動しています。6月のデビューコンサートでは4月に入学したばかりの1年生も一緒に楽しく演奏を行いました。7月には8月のコンクールに向けて合宿をし、部員同士の絆を深めました。8月のコンクールでは高校3年生と共に集大成の演奏で挑みました。その後も京都駅ビル大階段、梅小路公園で演奏を行い、11月にはオータムコンサートも無事行えました。学年に関係なくチームワークを大切に、日々より良い演奏を目指して練習に励んでいます。3月の定期演奏会でも素敵なハーモニーをお届けしたいと思います。

吹奏楽部

部長	藤井涼太郎
前部長	鈴木音羽
中学部員数	15人
高校部員数	32人
顧問の先生	小川晴海先生 西澤実先生 高山勉先生 野田昭子先生

成績一覧

吹奏楽部
第61回京都府吹奏楽コンクール

高等学校Aの部 銀賞
第57回京都府アンサンブルコンテスト
高等学校の部 BarTuba 4重奏 銀賞

第41回京都府高等学校総合文化祭
バトントワリング部門
第32回バトントワリング京都府大会
コンテスト部門バトンの部
京都文教高等学校バトン部 金賞
京都文教高等学校バトン部B 銀賞
※両チームとも関西大会に推薦

第52回バトントワリング全国大会
京都文教中学高等学校バトン部 金賞
第45回関西中学校・高等学校
バトントワリング大会
京都文教中学高等学校バトン部 金賞
京都文教中学高等学校バトン部B 銀賞

私達ダンス部は、中学生、高校生合同で練習に励んでいます。毎週月、火、木、金、土曜日に活動しています。普段は皆で力を合わせ楽しく練習し、大会が近づくとチームごとに切磋琢磨し練習に励んでいます。また地域のイベントにも参加しています。今年には漢字ミュージアムでのイベント、指月祭やともいきフェスティバルにも出演させて頂きました。今年も創立百二十周年を記念し、文化祭で2組のアーティストの方々とコラボという貴重な経験をさせて頂きました。これからも日々努力していきたいと思えます。よろしくお願ひします。

ダンス部

部長	青山美琴
前部長	高木日和
中学部員数	32人
高校部員数	78人
顧問の先生	矢下修平先生 法貴三知子先生 小嶋恵理子先生

成績一覧

ダンス部
○高等学校
・高校ストリートダンス選手権2024
全国決勝大会 特別賞 (MuraKumo)
・第17回日本高校ダンス部選手権
DANCE STADIUM
京滋北陸地区 ビッグクラス 準優勝
・第17回日本高校ダンス部選手権
DANCE STADIUM
京滋北陸地区 スモールクラス 3位
・第14回全日本高等学校チームダンス選手権大会 関西予選 大編成部門 第3位
・ストリートダンスクライマックス2024 関西予選 ベスト8 (ソナム)
・number.one DANCE CONTEST 特別賞 (KONORII)
・第14回全日本高等学校チームダンス選手権大会 全国決勝大会 大編成部門 優秀賞


(アニマロッサ)

- ・MUSIC DAYS 2024ワイルドカード予選
ダンス部門 最優秀賞 (アニマロッサ)
- ・MUSIC DAYS 2024 FINAL
ダンス部門 準グランプリ (アニマロッサ)
- ・マイナビHIGH SCHOOL DANCE COMPETITION関西予選 (1/18に結果判明)
- ・高校ストリートダンス選手権2025予選大会 (1/26に結果判明)
- 中学校
- ・第2回DANCE OF UNITE 出場
- ・第13回日本中学校ダンス部選手権DANCE STADIUM 関西予選 出場
- ・第12回全日本小中学生ダンスコンクール 関西予選 銀賞
- ・第12回全国小中学校リズムダンスふれあいコンクール ダンス部中学生部門予選通過
- ・第12回全国小中学生リズムダンスふれあいコンクール ダンス部中学生部門全国大会 (12/26に結果判明)

私たち美術部は、部員がそれぞれの個性を活かして活動しています。描くテーマは自由で、造形なども活動の範囲です。普段は個人で活動していますが、グループで活動することもできます。指導は、コーチがそれぞれに合わせて丁寧に教えてくれます。文化祭や私学展などに向けて部員一人一人が作品を制作します。

今年度の作品は油絵が多く、文化祭や私学展にも多くの油絵作品が飾られました。来年度もこれまでのような絵画に加えて、今までにない方向の制作にも幅を広げられる部活になって行ければいいと思います。

美術部



部長	近藤圭一郎
前部長	池山あおい
中学部員数	4人
高校部員数	8人
顧問の先生	西村正和先生

成績一覧

第49回浄土宗芸術祭美術展

美術部

美術部 大石皆実 美術奨励賞


写真部は、高校生二十五人、中学生三人で、主に土曜日に活動を行っています。

校内や学校周辺での撮影、各種写真展への出展などを行っている他、文化祭では写真展示を、オープンキャンパスでは写真展示と来校された方に現像体験を行っています。

学校の立地を活かし、学校周辺の平安神宮などの観光地で撮影に行くこともできました。

これからも自分たちにしか撮れない作品を撮ることを目標に、工夫し部員同士で考えたりしながら、楽しく活動していきたいと思っています。

写真部



部長	山田龍太郎
前部長	加藤遥
中学部員数	3人
高校部員数	25人
顧問	瀬川ひとみ先生 石橋克彦先生

成績一覧


カラー自由作品部門 佳作

写真部

清水愛未「平和の宝箱」
・第49回浄土宗芸術祭宗立宗門校学生美術展
美術奨励賞 山田龍太郎「帰宅」
藤本千尋「春の集合体」

モダンバレエ部は、毎週水曜日に第二体育館のトレーニングルームにてモダンバレエを踊っています。外部からモダンバレエのコーチを招き、中高合同で楽しく活動をしています。練習内容はバレエの基礎からモダンバレエを練習しており、本年度の舞台部門ではジャズの音楽を用いて3曲披露させていただきました。また、私学文化祭でも少し振りを変えて2曲選び舞台で披露し、オリジナル賞をいただきました。今年は新入部員が増え、お互いに教え合いながら発表に向けていい作品が作れるように練習しました。今後も踊る楽しさを忘れずにレッスンを励んでいきたいです。

モダンバレエ部



部長	滝村葵
前部長	磯部明空
中学部員数	6人
高校部員数	5人
顧問の先生	中本典子先生

成績一覧


第36回京都府私立中学高等学校文化祭

モダンバレエ部

演技部門 オリジナル賞

私たち演劇部は週に3回、放課後の教室で元気に活動しています。普段は滑舌練習や台本読みなど、基礎的な練習を行っています。また、本番に近づくと、衣装や振り付けの調整も行います。他にも演劇部は裏方もいます。音響や照明などで、舞台を影から支えてくれるとても頼りがいのある存在です。それらの練習を経て、私たちは文化祭や私学文化祭などで公演し、日々の成果を披露しています。公演を終え、舞台の上から見る景色はとても達成感があり、その景色を最高の状態で見るべく、日々切磋琢磨しています。

演劇部



部長	明石愛華
前部長	大倉小波
中学部員数	3人
高校部員数	10人
顧問の先生	奥田元美先生

成績一覧

第36回京都府私立中学高等学校文化祭

演劇部

演技部門～演劇～ 奨励賞



書道部

部長 北川梨華
 前部長 辛川はるか
 中学部員数 2人
 高校部員数 7人
 顧問の先生 小足誠市先生
 向山真由美先生

私たち書道部は中学生2名と高校生7名で毎週月・水曜日の放課後に活動しています。部員はとても穏やかな雰囲気です。部員はともにも穏やかな確かなアドバイスを受け、漢字や仮名や硬筆を「不二」という競書誌に月一度出品し、段級位の合格を目指し頑張っています。日々の活動以外では文化祭で作品を展示するという一大行事にむけて、夏休みに集中して練習し清書します。大きな紙に心をこめて字を書き、それが掛け軸として表装されて出来上がったときは心が躍ります。初心者も活躍しています。これからもよい字が書けるよう精進します。

辛川はるか
 創作隷書朱熹「偶成」
 岩野顕浄
 創作行書「天上天下唯我独尊」
 2024年京都府私立中学高等学校「私学展」書道部門
 出品 有田茉以・拝郷成仁・北川梨華
 栗田緒花

成績一覧

書道部
 第49回浄土宗芸術祭 宗立宗門校学生美術展
 美術奨励賞 盧嘉和
 創作行書陳繼儒「幽窓小記」
 出品 亀田晴菜 臨書「真草千字文」智永
 植田琴音
 創作行書柳宗元「寄許京兆孟容書」

私たちは漫画研究部は、毎週月曜日、水曜日、金曜日にコンピューター室にて活動しています。

普段は自分たちの好きな作品の話しながら、年に四回発行する部誌の原稿やイラストを描いています。私たちの大きな目標として、まんが甲子園があり、今年までに五回出場し二度受賞をいただきました。部内はとも和やかで親しみやすい人の多い雰囲気です。

自分の好きを追求し良い作品を創れるよう日々努力していきますので、これからも漫画研究部をよろしくお願ひします。

漫画研究部

部長 筒井希美
 前部長 塩野市朗
 中学部員数 7人
 高校部員数 19人
 顧問の先生 大橋俊光先生

第33回全国高等学校漫画選手権大会
 (まんが甲子園) 予選出場

成績一覧

漫画研究部



将棋部

部長 棚橋魁
 前部長 猪口悠斗
 中学部員数 2人
 高校部員数 9人
 顧問の先生 小足誠市先生

私達将棋部は、中学生2人、高校生9人で毎週火曜日、木曜日、土曜日に活動しています。活動内容としては、部員同士での対局やコンピューターでの対局、詰将棋です、そして顧問である小足先生の指導対局を受けています。私達が実力を磨くことができるのは部員同士ではお互いに対局をしながら分析をしたり、常に見守ってくださる顧問の小足先生がいっぱいのお蔭だと思います。又一人一人が一回ごとの対局を大切に、後悔のない対局をすることを意識しており、同時に礼儀作法も大切にしています。今後とも将棋部を宜しく願ひします。

第45回全国中学生選抜将棋選手権大会京都府予選大会

交流戦 バスト16 片岡稜葉、金澤慎二郎

成績一覧

将棋部
 第60回全国高校将棋京都府選手権大会
 男子個人戦 B級 バスト8 猪口裕斗



伝統芸能部

部長 水島佐和子
 前部長 有田芽衣
 中学部員数 0人
 高校部員数 3人
 顧問の先生 吉永ゆか先生

伝統芸能部日舞では、作法室にて月三回、毎週水曜日に活動しています。若柳流の先生が丁寧にご指導くださいます。部員は初心者からのスタートでしたが、文化祭での舞台発表で、化粧をし、振り袖を着つけて頂いて、美しい踊りを披露することができました。その他、オープンキャンパスや新入生歓迎会、年度によっては私学文化祭で踊ることもあります。去年は日本舞踊を通して国際交流を経験することができました。それらによって自己成長や自信を得ることができました。これからも、日々のお稽古を大切にしていきたいです。



英語研究部

部長 北村優衣
 前部長 高野蓮一郎
 中学部員数 2人
 高校部員数 14人
 顧問の先生 野口佳子先生
 ジェームズW
 ホーヴィー先生

私たち英語研究部は、高校生14人、中学生2人の計16人で活動しています。毎週月曜日と土曜日を活動日とし、日々英語スキルの向上に励んでいます。

活動としては、毎週土曜日に八坂神社に訪れた外国人観光客を無料でガイドをしています。月曜日はその練習と、ちょっとしたゲームの時間に当てています。さらに、円山公園で一年一度キクタニギクのお花見会に参加し、訪れた外国人にお花について説明することもあります。皆、英語に前向きに取り組んでいます。これからも英語研究部をよろしく願ひします。



園芸部

部長 坂みのり
 前部長 山下琳太郎
 中学部員数 2人
 高校部員数 3人
 顧問の先生 田中照子先生

私たちは土曜日に五号館裏の畑で活動しています。人通りの少ない校舎裏での活動はゆったりとした雰囲気があり、落ち着きます。今年も里芋やヘチマ、スイカなどいろいろなものを植えました。みんな食べられるものへの興味が強かったので夏には野菜やフルーツ、冬である現在はハーブ系とユリやシクラメンなどの花を植えています。夏にできたヘチマを秋まで乾燥させ、皮を剥いてたわしを作った時はとても楽しかったです。

来年度もより良い部活にしていきたいと思えます。



理化部

部長 佐野絢果
 前部長 味方慧
 中学部員数 5人
 高校部員数 2人
 顧問の先生 渡邊博之先生

理化部は毎週水曜日に中学生と高校生が、一緒に学び合いながら活動しています。顕微鏡で植物の断面や微生物の観察、電圧と電流の測定などを行いました。疑問を見つけたりして楽しく取り組めました。文化祭では、それぞれが興味を持ったことについて調べ、その内容を展示しました。そして、研究発表会では、自分が調べたことについてスライドで発表しました。緊張しながらも、みんなの前で研究を通して分かったことや考えたことなどを話しました。お互いが、興味のある分野を見つけ、高め合うことのできる素晴らしい部活です。



茶道部

部長 盧嘉和
 前部長 南隼仁
 中学部員数 5人
 高校部員数 5人
 顧問の先生 田中照子先生

茶道部は、毎週火曜日と木曜日に作法室で活動しています。部員は中高合同で、楽しくお稽古しています。学校外より先生に来ていただき、季節に合ったお点前を習います。練習していく中で、お道具の名前や季語など普段使わない知識や言葉が身につきます。お点前の手順を覚えるのは大変ですが、一人でできた時はとても嬉しくなります。今年はコロナによる規制も緩和され、オープンキャンパスでは来られた方にお茶の点て方を教えたり、文化祭では家族にお点前を披露しました。もっと美しいお手前ができるよう、お稽古していきたいです。



軽音楽部

部長 大崎涼之介
 前部長 高木優羽
 中学部員数 0人
 高校部員数 75人
 顧問の先生 藤田飛鳥先生
 井上清志先生

私たち軽音楽部は、それぞれが決めた曲を日々練習しています。今年もたくさん生徒が軽音楽部に入部してくれました。活動場所は基本地下音楽室のみなので、練習時間を増やすことはできませんが、部員一人ひとりが時間を大切に練習できているため良いと思っています。イベント等に関しては、定期開催のオープンキャンパスでのライブや文化祭、京都市内のライブ会場での発表等を行っています。また、京都府の様々な学校の軽音楽部が集まるコンテストなどへの出場も考えています。今後も、行事を盛り上げていけるような活動をしていきます。



ポップス・ボーカル同好会

部長 脇拓摩
 前部長 森脇巴那
 中学部員数 3人
 高校部員数 11人
 顧問の先生 奥田元美先生
 絹川由佳先生

ポップス・ボーカル同好会は中学生3名高校生11名の計15名で瑠璃殿で活動しています。

活動日は毎週火・金曜日で、主な活動内容はソロやデュエットなど好きな曲を音源などを使用し歌い自分の個性を追求し、イベントに向けて一つの曲に集中して先生や他の部員にアドバイスを貰いながらその個性を伸ばしています。

今年は12月に路上ライブに挑戦しました。初めてのことで色々苦労しましたが、なんとかやり遂げることができました。

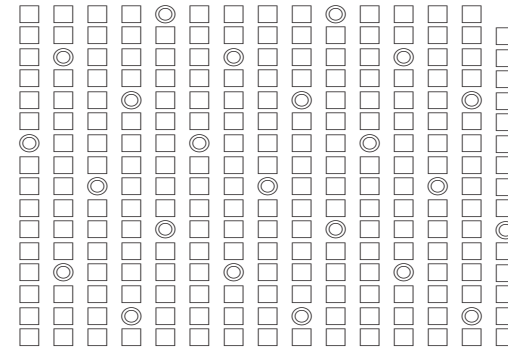


鉄道研究同好会

部長 山田龍太郎
 前部長 鶴原悠暉
 中学部員数 2人
 高校部員数 8人
 顧問の先生 瀬川ひとみ先生
 石橋克彦先生

私達鉄道研究同好会は、現在高校生8人、中学生2人の計10人で活動しています。主に土曜日にジオラマ整備、模型の試運転などの活動を行っています。

今年は無事に活動ができ、また文化祭でも写真展示とジオラマ展示、運転体験ができたのでよかったです。そして、今年はオープンキャンパスでもジオラマ展示を行いました。これからも、随時写真撮影やジオラマのメンテナンスなどをして、部員一同全力で来年の文化祭にむけて準備してまいりますので、よろしくおねがいします。



部活外クラブ なぎなた

部長
 前部長
 中学部員数 X人
 高校部員数 X人
 顧問の先生 先生
先生

成績一覧

第46回京都府高等学校総合体育大会
 なぎなた競技
 1回戦敗退

高1年 樋口楓花

第45回京都府高等学校なぎなた選手権大会

1回戦敗退 高1年 樋口楓花

第25回京都府高等学校なぎなた

冬季チャレンジ杯

高1年 樋口楓花

H・Rだより

中学
一年一組



西別府 秀史 先生

私たち一年一組は男子十九人、女子九人、計二十八人のクラスです。

一年を振り返り遠足では学校から鴨川沿いを歩き京都府立植物園まで歩きました。初めての課外授業だったのでたくさんの方とコミュニケーションをとれ仲良くなれました。二学期になり合唱祭では一致団結して練習に取り組み、クラスの特徴の一つ「元気がった賞」をもらいました。文化祭では祇園祭のことについて調べ、みんなの前で発表しました。その後、ゲストライブや高校生の出し物や出店で楽しみ良い思い出ができたと思います。

体育祭ではクラスの中で、「赤組」、「青組」、「黄組」に別れましたが一人一人が良い結果

が出るように一生懸命に頑張りました。このクラスで、過ごす時間も少なくなりましたが、日々お互いに成長できるようにたくさんの方とコミュニケーションをとり、このクラスで良かったと思えるようにしたいと思います。

一年二組



山本 翔也 先生

私たち中学一年二組はみんなで行事を楽しむことが出来る賑やかなクラスです。

合唱祭では、「朝の風」を歌いました。みんなで行う初めての共同作業だったので、とても楽しめました。練習時間も少ないなか、みんなで協力することができたと思います。文化祭は、探求で祇園祭りをテーマにグループで発表をしました。保護者の方もたくさん見に来てくれたので、とても緊張しました。体育祭はクラスで一つのチームではなかったのですが、一人一人元気に力を出し切れたと思います。

学年でのチーム分けだったので、そこまで話したことのない友達や先輩方たちと仲良くなれたり、一緒に応援したりと普段ではできないことができたのでよかったです。

三学期は今まで以上にメリハリをつけながら、元気に楽しく学校生活を送っていききたいと思います。

二年一組



小足 誠司 先生

二年一組はとても個性的で楽しいクラスです。

授業の合間や休み時間になると話し声や笑い声が教室中に響き、その声が絶えないクラスです。行事の夏の集いでは、二年生全員でツーリングをしたり、カヤックに乗ったりしました。行く前は楽しみな気持ちに含め少し不安な気持ちもありましたがみんなと協力しあい楽しい思い出が作れました。体育祭では、今年は二組との合同での体育祭となりましたが、台風の目やリレーなど互いを応援しあい全力で取り組み、楽しむことができました。スケート教室では、友達と楽しみなながらもあまり上手く滑れない友達と協力しながら滑ることができました。今年は一組のみんなと時々ぶつかり合うこともありましたが多くのいい思い出が作れて良かったです。一組のいろいろな個性を活かしていろいろなことにチャレンジしていきたいです。

担任の先生に確認してもらったかどうか。

二年二組



宮原 京子 先生

自分のクラスは一つ一つの事を全うするクラスだと思っています。このように思う理由はいくつかあります。文化祭の探究発表の時、色々な飾りを作成していたところで、一つの行事を完璧に仕上げるためにクラス一丸となり、しかも二組だけではなく一組まで巻き込んで制作しているところが、とてもこのクラスらしいなと思います。ほかにはこんな場面があります。夏の集いの際に全員がすべてのプログラムを楽しそうにやっていることです。例えばマウンテンバイクのときに、クラス全員がはりきってペダルをこいでいるところが見られたり、最前列にいて友達としゃべりながら乗っていたりして全力でその時間を楽しんでいる感じがしました。しかし、さっきの話とは真逆でテスト勉強の時には死ぬ気で勉強しています。このように自分のクラスは、このようにメリハリをつけるのが上手です。このクラスに来て、自分も少しずつ成長していることがわかります。

三年一組



北尾 千春 先生

私たち三年一組は、とにかく明るくて元気で切り替えがよくできるクラスです。休み時間になると楽しそうな声が聞こえます。授業になるとパツと切り替えができ、一人一人が積極的に意見を言い合えます。

例えば、自分の周りの席の人が分からない時にその周りの人達が教えてあげられるからです。また、体育祭の時全力で勝てるように、みんなが納得できるまで話し合いをしてエントリーをできたのが良かったです。結果は残念で泣いている子もいました。けれども、私にはいい経験にもなったかと思えます。

体育祭に限らず、一組はとても素敵なクラスです。このクラスで過ごせるのは、あと三ヶ月ほどですが、楽しい思い出をこれからも作っていききたいです。

三年二組



坂田 杜馬 先生

私たち中学三年二組は、中学校生活も終わりが近づいてきて、高校生になろうとしている中、今年度様々な活動、行事、各々の部活動などを通し勉強だけでなく、人としても成長しました。

このクラスは、初め全体的に落ち着きの無いクラスでしたが、担任の先生、室長のおかげで今では、落ち着きも出てきて、「明るくて元気のあるクラス」になりました。授業の前にはチャイムがなる前にみんな授業準備をして席につくようになり、授業へのモチベーションの向上も見られるようになりました。修学旅行では、他国の文化や違った生活に触れ、人とのコミュニケーション能力なども向上しました。

様々なことがあったこの一年で、このクラスは多方面で成長でき、またこれから高校生になるまでに見直さないとこが見えてきました。

三年三組



竹内 裕子 先生

私達三年三組は、とても元気なクラスです。体育祭のときは、みんなで旗を作り、黄色組を応援しました。文化祭のときにはグループに分かれて、オーストラリアについて調べたことをスライドにまとめて発表しました。オーストラリアに語学研修に行ったときには、現地のルールに従って、ホストファミリーのもとでバディと力を合わせて頑張って生活しました。現地の小学校では日本の伝統的な遊びを实际に遊びながら紹介しました。モーニングティーでは、現地の小学生と一緒に果物やファーストフードなどを食べました。この一年間、みんなでいろいろなことをしてきましたが、オーストラリアへの語学研修はその中でも特に大きな経験になったと思います。異国の文化、言語だけでなく、飛行機の乗り方なども様々なものを学べたと思います。この経験は、将来きつと役に立つと思います。高校生になっても、みんなで仲良くしたいです。

高校一年一組



藤田 飛鳥 先生

私たち一年一組は授業は真面目に受けて遊ぶときはしっかり遊ぶようなメリハリのあるクラスでした。体育祭などではクラスの人のことを応援したりもしてクラスの協調性もよくありました。文化祭でもみんな協力して作品を作ることによりクラスの中が深まった気がしました。定期テスト期間になると真面目な人が多いので自習の時間なども有効的に活用して授業も積極的に受けるような雰囲気があります。でも、逆に静かすぎて授業中に意見を言う人があまりいないという先生もいるのでそこは改善するべきなのかと思いましたが、一学期の初めの方はみんな緊張していましたが、徐々にみんな仲良くなって今ではみんな楽しそうにしている雰囲気があります。担任の先生も優しくして面白い方で先生のおかげでみんな楽しく過ごしています。これからも今まで通り勉強やる時はやって遊ぶときは遊ぶようなメリハリのあるクラスで残りの期間過ごしていきたいです。

一年二組



山崎 太一 先生

一年二組は運動部が多くとにかく元気なクラスです。高校生活がスタートし不安とドキドキでいっぱいの中最初は静かなクラスでしたが日々過ごしていくうちに男女仲良くにぎやかなクラスになっていきます。初めてのクラスで協力する行事、合唱祭では「ひまわりの約束」を歌い練習中はお互いぶつかることもあり、男子と女子のハモリなど難しい場面も沢山あったが本番では一人一人声を出して金賞という結果をクラスで残せたのでとてもよかったです。文化祭では教室の展示物を協力して作ったり、体育祭のクラス対抗リレーでは決勝戦までいきクラスがより一体化しました。私たちはこのように、なにか協力する時は協力できるという力を持っています。全員が一つのことに向かって全力で取り組み遊ぶ時は思っきり遊ぶというメリハリがあるからだと思います。次の高校二年生でもみんなが楽しく全力で取り組んでくれることを願っています。

一年三組



大橋 俊光 先生

私たちのクラスは入学当初から賑やかになった元気いっぱい行動力もあるクラスです。担任の先生の誕生日にはクラス全員が協力してサプライズを大成させ、先生にとっても喜んで頂きました。合唱祭では「あなたへ」を歌いました。練習が上手くいかずパパートごとに分かれ互いにアドバイスをし合いました。本番では優勝はできなかったものの練習以上の曲を歌うことができました。文化祭では「ゲルニカ」を制作しました。一人一人の個性で色を塗り一つの大きな作品を完成させ「銅賞」を獲得しました。体育祭は優勝できませんでしたが、男女共に全力を出し切ったクラスの壁を越え応援合えました。勉強面はちょっと苦手な三組だけテストの平均点が低くかかりましたが、クラスの勉強が良くできる人を見習い、しっかりOnとOffの切り替えを出来るようにして、なんとか学年平均に追いつくことができました。二年生でも三組のパワーで頑張っていきます。

一年四組



杉田 千紗 先生

今年一年を振り返って一年四組は関わる機会が少ない人とも話している様子からコミュニケーションが活発なクラスだと感じました。文化祭の展示では、制作途中で学級閉鎖になつてしまい、制作ができる最終日前日まで活動することができなくなつてしまいました。リポートなどで話し合ったり、自分達でできることを考え、活動ができる最後の一日で協力し完成させることができました。これは、クラス全員が一致団結したからこそ乗り越えられたのだと思います。

体育祭では、クラスメイトがでている競技で声を出して応援していました。このクラスの良いところが発揮できた一日だと思いました。

日常生活や行事などで、コミュニケーション、団結の大切さを学ぶことができました。今年このクラスで過ごした日々の中で学んだことを来年からも活かしていきたいと思

一年五組



加藤 潤 先生

私達のクラス一年五組は明るく賑やかながらも、授業になるとけじめをつけて授業に集中し続けるところがあるいいクラスです。

男女の仲もよくみんなが楽しく一緒にどこかへ行ったり、話し合うこともあります。

体育祭では、自分たちの得意種目や能力を発揮させ、ときには友達だけでなく同じチームの人たちにも応援をかけました。

そのおかげか、みごと優勝することができました。

文化祭では、お化け屋敷をしました。

どうすればみんなが楽しんでもらえるのか、どのようにすればおぼけをより怖くできるのか、工夫や試行錯誤を重ね、みんなで作業を分担しながら協力した結果、廊下の階段にも行列ができるほど大人気となって、みんなが喜びました。

あとのこり数ヶ月程度ですが、最後まで楽しんでいきたいです。

一年六組



武用 諒 先生

僕達のクラスはとても元気で楽しい雰囲気。毎日がみんな楽しそうに学校生活がより充実した物になっていきます。特に印象に残っているのは、合唱祭です。クラスみんなが一つの目標に向かつて協力する姿勢がとても良かったと感じました。練習の過程ではまとまりがなくて入賞できそうにもなかつたけどそれを乗り越えて、クラスがまとまったと思いました。体育祭ではリレーなどで大いに盛り上がりました。みんなが一丸となって応援しあい勝利を目指していました。だからみんなにとって結果以上に大切な思い出になったんじゃないかと思えます。さらに授業中もみんな活発な意見を言っていて、自分の意見をしっかりと持っていてとてもいいと思いました。先生たちもそれに答えてくれて、自由な雰囲気の中で学ぶことができている。このような環境の中でみんなとても楽しそうにしています。これからも楽しく過ごしていきたいです。

一年七組



宇野 慎也 先生

私たち一年七組は、個性的なメンバーが多く、明るくて元気なクラスです。全員の仲が良く毎日楽しく過ごしています。今年一年はたくさん行事があり全員で全力で取り組みました。文化祭でははじめ意見があまりまとまらなくて大変だったけどみんなで見解を出し合って一人一人が自分の役割をしっかりと果たして協力しいい作品を作り上げることができました。作業中も楽しくメリハリをつけられました。体育祭では一つ一つの競技をみんなが全力で取り組み、応援でも盛り上がることでできたクラスが一つ一つのを感じることができました。全員楽しみなながら勝ちたいという思いで頑張っていました。クラス全員で思い出に残る体育祭にすることができました。初めての高校生活で勉強やクラブで戸惑ったりすることもあったけどこのクラスで楽しく充実した日を過ごすことができました。これからも一日一日を大切に協力し最後まで過ごしていきたいなと思いました。

一年八組



岩間 篤美 先生

今年一年を振り返ると、たくさんの新しいことを経験することができたと思います。高校に入学し、始めは不安でいっぱいでしたが、友達もでき、少しずつ高校生活に慣れていきました。

一年八組は、互いに助け合える思いやりのあるクラスです。たとえば、試験前になるとクラスではわからないところを教え合ったり、休み時間に問題を出し合ったりしています。このように良い雰囲気です。

文化祭や体育祭などの行事では、普段見られない、クラスの仲間の一面を発見したり、あまり関わりのなかつた人と協力して準備したりとクラスの仲が深まるよききっかけになりました。特に文化祭では、みんなで見えを出し合い、一人一人が自分の役割を果たしてよいものを作ることができました。

一年生も残りわずかですが、このクラスで過ごせる時間を大切にしたいです。

一年九組



中本 典子 先生

私たち一年九組は、とても仲良く明るいクラスです。また、放課後や授業の後にわからないところを先生に質問したり、友だちに聞いたりする様子をよく見る積極的なクラスでもあります。初めはみんな緊張していたけれど、内部生の人たちを中心に、男女関係なく話せるようになりました。行事でもクラスの絆は発揮され、合唱祭では、音楽を習っている人が音程を教えて何回も練習し、本番ではいつも以上の力を出すことができました。結果は銀賞でもとても悔しい思いをしたけれど、全員で頑張れたからそれでいい、と思うことができ、結果より、頑張ったことを誇りに思えるようなクラスで本当に良かったと思います。このクラスで過ごせるのはもうあと少ししかないことがとても悲しいですが、そう思えるようなこのクラスが、高校生活最初のクラスになって良かったと思います。残りの時間も変わらず仲良く明るく過ごそうと思

一年十組



奥田 元美 先生

私達一年十組は皆とても真面目で、フレンドリーなクラスです。入学初日から話しかけてくれるほど積極的なクラスでした。文化祭では、お化け屋敷を作りましたが、段ボールの扱いが難しく何度も壊れては直してを繰り返していました。夜遅くまで一緒に作ったのはとてもいい思い出です。体育祭では一つ一つを真剣に取り組み、応援も頑張り皆楽しそうに挑んでいました。十組はお互いに助け合い、励まし合いのできるクラスです。今度様々な困難に立ち向かうと思いますが皆で一緒に乗り越えたいと思います。

二年一組



川村 一之 先生

私たち二年一組は、何事も一生懸命に取り組み、メリハリを持って行動できるクラスです。最初はみんな静かで真面目なイメージがありましたが、行事を重ねていくうちにクラス全体の絆が徐々に深まり、一人一人が個性を出して過ごせるようになりました。特に合唱コンクールでは伴奏者がおらず、どうなるんだろうという不安も抱えながら本番を迎えましたが、全員が力をあわせて全力で取り組んだことよって、良い形で終えることができました。優勝はできませんでしたが、クラスにとってものすごく思い出深い行事となりました。他にも、文化祭や体育祭では各々がアイデアを出し合い、ぶつかり合うことで、全員が楽しめる行事となりました。行事だけでなく勉強も一生懸命取り組み、授業で分からないところがあればお互いが教え合い、共に高め合える関係が築けていました。二年一組で過ごす日も残りわずかですが、最後まで楽しく過ごしていきたいです。

二年二組



リムチジャ 先生

二年二組は個性的なクラスです。クラス全員が活気にあふれていて自分にとっての八ヶ月はあつという間に過ぎたように感じました。普段はふざけたり、うるさかったりまとまらないことが多いけど行事のときには団結力を発揮します。一つの例が体育祭です。リレーや玉入れ、綱引きなどたくさん種類に分かれて協力して取り組みました。自分が出場しない競技でも自分のことのように団結して応援していたり、全員が楽しみながら勝ちたいという思いで、頑張っていました。そして二組が入っている赤組が優勝することができました。優勝した喜びを分かち合うときもクラス全員で喜んでいて団結力を感じました。優勝できたのは二組の団結力あってこそものだと思います。このクラスも残りわずかな時間しか残っていないので、一日一日を大切に最後まで明るく楽しいクラスでいられたらいいなと思います。

二年三組



戸田 和真 先生

私たち二年三組は、みんなが個性的で何事にも挑戦し、一直線に進んでいくクラスだと思います。今年の文化祭は一年の時と違って舞台発表でダンスを踊りました。躍るにあたって最初はどうかと正直心配しました。みんなやっていくため一人一人が個人的なことをしてしまおうと進まない。私たちははじめ何をするか自体大雑把にしか決められておらずギリギリまで案が生まれませんでした。そのあと話し合いで決まったものの、踊りが苦手な人のやる気が起きなくてみんなバラバラな行動をしてしまっていました。しかし、できる人から教えていき、楽しさが出ました。私たちは日々の中でするべきことは何か、効率よくするためにどうすべきかを頭の中で考えながら過ごすべきだとこの一年間で思いました。また、二年は学年でも真ん中でみんなの学年を引っ張っていくといけないためよりこの基礎が必要だと思いました。

二年四組



道端 宗昭 先生

私たちのクラスは、学業や人間関係を通して成長し合い、毎日活気に満ちた学校生活を送っています。また協力することやコミュニケーションの重要性を再認識してクラス全体で様々な活動に取り組んできました。体育祭や文化祭を通してお互いの絆が更に深まりました。特に文化祭ではクラス全員で出し物を考え準備し、素敵なダンスを作り上げました。このような学級活動を通して、他者との協力やコミュニケーション能力が高まり、クラス全体の団結力が強くなったと感じました。

しかし一方で遅刻が多く、クラスの風紀を乱す状況もあるので、今後はクラスの委員を中心にみんなで意識を向上し、より良い学級にしていきたいと思っています。そして、クラス全員でそれぞれが自分の役割を果たし、より良い学びの環境を作り上げていくことを目指したいと思います。

二年五組



馬淵 瑞穂 先生

私たち、二年五組は男子十六名、女子十六名計三十二名のクラスです。担任の馬淵先生、松本先生のご指導のもと、日々学業に動んでいます。私達のクラスは文教サンフェスティバルの文化祭や体育祭など様々な行事に全力で楽しみ頑張れるクラスです。

文化祭では、二年生の舞台部門で少しトラブルがあったもののしっかりと銀賞を収めるなどみんなで協力して学校生活を送っています。

また、自分の係には責任を持って取り組んでいる生徒ばかりです。後三ヶ月という短い期間ではありますが最後まで二年五組らしく全力で突き進んでいきたいと思っています。

二年六組



福島 尚晃 先生

私達二年六組は、ひとりひとり個性豊かなクラスメイトが集まって非常に面白く、またみんなが楽しく、意見が言いやすく、一日を通して賑やかなクラスです。

そして、今年是一年を通してコロナによる制限がなくなったので、合唱祭や文化祭、体育祭など今まで以上に全力でみんなで楽しく仲良く協力して行うことができました。特に文化祭ではダンスをするにあたり、お面やつらなどを被ったり、ペンライトを振るなど様々で、大量の制作物、買い出しがあったので大変でしたが、みんなで準備から実行まで協力し楽しく成功できました。

合唱祭や体育祭、LEAP大会などのクラス対抗行事などでは上位に上がることはできませんでしたが、みんな仲良く楽しく過ごしているのが良いクラスです。

三月の終業式までこれまで通り、楽しく、また仲良く、そして協力して過ごせたらいいなと思います。

二年七組



土井 拓哉 先生

二年七組は元気で明るく、楽しいクラスです。僕達のクラスは授業中に話し出すと止まらなくなり、うるさくてよく怒られることがあります。ですが、体育コースとしての自覚が出たのか、一年の頃と比べて切り替えが早くなっていると感じています。

体育の授業は活発で、盛り上がる事が多く、特にサッカーでは白熱した試合がよく見られます。みんな仲良く、笑顔でいることが多いです。クラスの団結力を感じたのは学校祭です。

合唱祭では最初練習で誰かがふざけてなかなか上手いかなんことがよくありましたが、本番に近づくにつれて一生懸命になり男子クラスの団結を感じました。目指していた金賞は取れませんが、いい合唱になったと思います。残り数ヶ月しかありませんが、より良い学校生活を送っていききたいです。残り数ヶ月しかありませんが、より良い学校生活を送っていききたいです。

二年八組



三好 弘晃 先生

私たち二年八組は、個性的な人が多くてにぎやかなクラスです。授業では積極的に発言し、テスト前にはわからないところを互いに教え合うことのできる人がたくさんいます。先生方に騒がしいと言われることもあるけれど、テストで良い点数を取ることができるようみんなで努力しています。文化祭では、みんなでダンスを踊りました。はじめの方では何を踊るか、どんな構成にするのかなどを決めるのに時間がかかりましたが、最終的には日々の部活動で鍛えられた集中力で完成し、銅賞を取ることができました。あと一年もすれば高校生活もほぼ終わりです。これからの進路を考えていかなければいけないので、進路選択の幅を広げるために日々の勉強をクラス全員で頑張りたいと思います。またそれと同時に部活動においても集大成となる人が多くいます。日々の厳しい練習を頑張ってきてよかったと思えるように、悔いの残らないようにこれからも頑張りたいと思います。

二年十組



野口 佳子 先生

私達のクラスは、協調性のある心優しいクラスです。それを最も実感できたのは文化祭のクラス発表です。

私達のクラスは文系と理系で分かれていることもあって授業なども別々に受けることが多い、クラスが一つとなって何かするとうことがこの文化祭が初めてということもあり心配でしたが、誰一人めんどくさがらずに取り組み、お互いに足りないところを補いながら素晴らしい発表をすることができました。こうしてクラスが丸となって、クラス発表準備に取り組めたことで、それまで以上にクラス全体が仲良く、活気の溢れたクラスになりました。

来年は高校生活最後の一年で、楽しいことだけでなく受験など色々な課題が増えていきますが、これからも困った時には助け合い支え合いながら乗り越えていこうと思います。

二年十一組



松木 肇 先生

私達十一組は、文化祭ではグループに分かれて、試行錯誤しながら一から劇を作りました。思うようにそれぞれの意思が伝わらず、不満を覚える人もいました。二年目ということ、学校生活に慣れてきたからこそ、少しずつお互いに思うところが増えてきたのではないかと思います。そのような中で迎えた本番。練習のようにはいかず、悔しい思いもしましたがみんなで協力し合いながらなにかを作り上げていった経験は大切なものになったと思います。今年から文系と理系に分かれ、全ての授業をクラス全員でする訳では無いですが、どちらも充実して今年一年学ぶことができたと思います。そして、大学についてもよく学ぶことができた一年でした。実際に大学の先生に話を聞くことは「もうすぐだ」と自覚することができると良い機会で、みんなの意識も変わってきたと思います。勉強は個人でするものですが、協力し合いながら温かい雰囲気で頑張りたいです。

三年一組



西村 忠泰 先生

私たちのクラスは、みんなが何事にも全力で取り組めるクラスです。体育祭では、一人一人が競技を一生懸命にこなし、同じ青組の応援にも全力を注いでいました。合唱祭ではパートごとに練習をし、最終的にはクラス一丸になり練習を繰り返しました。優勝はできなかったのですが、とても良い思い出になりました。私たちのクラスはTEPPAN大会に力を入れていました。みんなで良い結果を残せるように団結して取り組みました。その結果、学年で二位を取ることができました。授業中は、静かに集中して勉強に取り組んでいます。そのため雰囲気良く、とても勉強がしやすいです。このように、私たちのクラスは行事と勉強にメリハリをつけることができます。そして、どちらにも全力で取り組めることが一組の良いところです。このクラスで過ごすことができてよかったです。高校で学んだことを活かして、一人一人が目標に向かって頑張っていけるといいなと思います。

三年二組



小川 晴海 先生

三年二組は、楽しむことに関して絶対の自信があるクラスだと思います。最初の頃はすごく静かなで落ち着きがあるクラスなのかと思っていましたが行事などを通して打ち解けてくると日常がすごく賑やかになり、笑顔の堪えないクラスだと思いました。体育祭では、あまり動くのが得意じゃないという声など耳にしていたのですが、いざ当日になると応援する声や笑い声などがずっと聞こえて終わる頃には皆が疲れ切った顔をしていたのが今でも思い浮かびます。合唱祭では、男子も女子も自分のパートを精一杯練習し、本番前の掛け声は「楽しもう」というものでした。多分担任の小川先生が一番楽しんでたと思います。担任の小川先生にはたくさんお世話になりました。もう少しで高校生活は終わりますが、楽しむということ、このクラスから学ぶことができました。残りの高校生活を悔いの残らないよう一日一日を楽しんで卒業したいと思います。

三年三組



竹本 真也 先生

私たち三年三組は男子十七名、女子十七名、計三十四名で、誰もがこれからも忘れることのない最高のクラスです。担任の竹本先生は面白くてどんな事にも寄り添い、全力でサポートしてくれる先生です。竹本先生だからこそできた思い出は数え切れないほどあります。私たちのクラスは皆が協力し、話し合いを重ね誰一人欠けることなく最高の作品と発表をしました。合唱祭ではクラスが一致団結し最高の指揮(杉本)と伴奏(池丞)で特別賞を頂き、体育祭ではクラス対抗リレー(今江、宇野、木村、後藤、阪本、笹田、杉本、田中、林、山中)でクラスのメンバーを全力で応援し二位という結果を残しました。私たちにとてもかけがえのない思い出です。また二年生での授戒会では、文教でしか経験できないようなことも経験できました。将来大学生、社会人になっても活かすことができる学校の校則、たくさんさんの経験と知識を授けて下さった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

三年四組



二之湯俊一郎 先生

私たち三年四組は、一人一人の個性が強く、まとまりがないように見えても、学校行事などに取り組む時は団結できるメリハリのあるクラスです。

文化祭の出し物ではお化け屋敷に挑戦しました。どんなものにするか決めるのに時間がかかり中々準備が進まず不安になりましたが、前日の設営では時間ギリギリまで作業し、当日のイレギュラーにはそれぞれが「自分に出来ること」を考えて行動することができました。十二月に入り進学先も決定し始め、卒業まであと少しとなりました。私たち四組は、時々賑やか過ぎて担任の二之湯先生や各科目の先生方を困らせてしまうこともありですが、注意されながらも日々真面目に楽しく過ごしています。残りの学校生活では先生方を初めとした多くの人に支えられていることに感謝し、最後まで「やる時はやる」メリハリのあるクラスでありたいです。全員が笑顔で卒業式を迎えられますように。

三年五組



内田 典子 先生

私たちのクラスは、協力と団結力に溢れたクラスです。合唱コンクールでは、全員が一丸となって練習に取り組み、何度も意見を出し合いながら完成度を高めていきました。その努力の結果、素晴らしい発表ができ、心一つにして歌うことの大切さを改めて感じました。練習中、意見がぶつかるともありましたが、みんなで話し合い、理解し合うことで、より良い合唱にすることができました。

また、体育祭では、クラス全員が一致団結して優勝を目指しました。競技だけでなく、応援にも力を入れ、みんなで支え合う姿勢が素晴らしかったです。特に、チームワークとお互いのサポートが勝利に繋がったと感じています。応援席からの声援が競技者を励ます場面も多く、みんなの絆を強く感じました。これらの経験を通じて、私たちのクラスは困難な状況にも諦めず、みんなで協力して乗り越えていける素晴らしいクラスだと思えます。

三年六組



松本 大介 先生

私達のクラスは今年受験生ということでクラス一丸となって勉学に励み、尚且つ高校生活最後のクラスとして体育祭や合唱祭、文化祭などの行事にも全力で取り組み、全力で楽しむことが出来ました。私達のクラスは三年としてのクラスがスタートした初期の頃は問題も多く、多くの生徒が担任の先生から叱咤を受けることなど多々ありましたが、クラスとしての協調性、団結力、積極性は凄まじく、これまで色々な行事やイベントでその力を発揮し、体育祭や合唱祭では惜しくも優勝や金賞を逃しても、クラス一丸となり挑んでいるかの観点で見ればどこをとっても優勝だと自負しています。私達のクラスは個性的な人が多く、時には諍いが起きることもありましたが、一致団結して頑張りたいという気持ちは皆同じで、最終的にはとても仲睦まじいこのクラスの一員で良かったと心の底から感じる事が出来ました。みんな、本当にありがとう！

三年七組



本庄 俊明 先生

三年七組は、体育コースで楽しくにぎやかなクラスです。私たちのクラスは、一人一人の個性が強く、おもしろくて明るい人たちがかりで楽しむ時は楽しむ、やるときはやると切り替えもすっかりできます。部活の時にもそれを発揮していて、良い結果を残すために毎日集中して、努力しています。試合があった時には部活の枠を超えて「がんばれ」「お疲れ」を言い合ったり、また体育祭ではクラスの特性を生かしコース関係なく場を盛り上げる事ができたと思います。

三年七組は、他のクラスに比べて、他の人を笑顔にしたりすることや団結力だけは負けないと思っています。残り数少ない学校生活となるので、一日一日を大切に過ごしてもっといい思い出を作り合いたいと思います。またそれが数年後、同窓会などを開いたときに、色褪せない思い出として、当時に戻ったような気持ちで、語り合えるのではないかと思います。

三年八組



下野 龍司 先生

私たち三年八組は個性豊かで、みんなが明るいクラスです。そんなみんなのお陰で、毎日楽しく笑顔が絶えない生活が送れました。授業の中でははじめをつけられており、部活動では、目標に向かって日々練習を重ね、お互いの大会を応援し合うなど、切磋琢磨できていました。また、行事にも全力で取り組んでいました。合唱祭では短い練習時間の中でポイントを絞り、持ち前の団結力を活かして金賞を取ることができました。文化祭では、三年生の中で唯一、舞台発表をしました。私たちの明るさや元気良さを最大限アピールできたと思います。体育祭では、どの種目も全力で盛り上げ、競技に出場しているクラスメイトには大きな声援を送っていました。

このように、三年八組で最後過ごせたことがとてもいい思い出になり、いい経験になりました。三年八組で過ごせる時間も残り少なくなってきましたが、明るく元気よく、一日一日を大切にしていきたいです。

三年九組

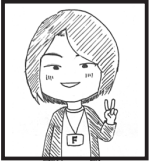


中川 真弓 先生

私たち三年九組は、団結力を強みに様々な活動に取り組んできました。一人ひとりが自分の役割を理解し、協力し合うことで良い結果を生み出すことができました。意見の食い違いが起る場面もありましたが、全員が納得できるまで話し合いを重ねて乗り越えました。

特に文化祭では、受験勉強や出願準備が重なり、多くの人が時間的にも気持的にも余裕のない状況でした。それでも、お互いを思いやり、補い合うことで団結力を発揮し、限られた時間を有効に活用しました。放課後には、時間が取れる人が作業を進める一方で、全員が集まる貴重な時間を最大限に生かす工夫をしました。その結果、文化祭当日には全員で達成感と喜びを共有できました。この経験を通じて、忙しい中でも協力し合う大切さや仲間と目標を成し遂げる喜びを学びました。この団結力を胸に、それぞれの新たな道へ進んでいきたいと思えます。

三年十組



藤原 幸 先生

- (有田) Festina lente: ばちばち行きます!
- (池元) 三年間お世話になりました。
- (一柳) 人生は勉強や勉強や。
- (稲岡) 二年間ありがとうございました。
- (上田) 三年間で学んだのはInsectでした。
- (加藤) 三年間このクラスで良かったです。
- (金谷) 受験、みんなで乗り越えよう!
- (亀田) 三年間楽しかった。ありがとう!
- (須賀) このクラスでよかった!ありがとう!
- (滝村) 気持ちで負ける奴は弱い。
- (田中) 万物は諸行無常。
- (田辺) 「社長」は永久に不滅です。
- (主税) 文教生活完結。
- (辻) 三年間本当にありがとう!
- (西川) なんやかんや耐える
- (蜷川) 三年間仲良くしてくれてありがとう。
- (藤川) 体調には気をつけましょう。
- (南) 点滴石を穿つ
- (吉田) 大切な思い出をたくさんありがとう!
- (渡邊) 南無阿弥陀仏

詞 林

第70回青少年読書感想文コンクール
京都府私立学校図書館協議会優秀賞
京都府私立学校図書館協議会京都市長賞

「祈りの沈黙」

高校三年 有田芽以

高校生活の実に半分ほどは、沈黙の海の底にあった。友人に先生に恵まれた明るい毎日の中で私はしかし、時々言いようのない空恐ろしさに襲われては静かな海に沈むのだった。

空恐ろしさ、というのが全く厄介なもので、理由がわからないから静かに耐えるしかない。そんな私の三年間と共にあったのが、遠藤周作の「沈黙」だった。一年生の夏に初めて手にしてから幾度となく読み返したこの本は、厳しい近況の時代に日本でのキリスト教布教を図った宣教師ロドリゴたちの物語だ。決して明るいとは言えない展開の連続、読めばむしろ気分が沈みそうなものだが、不思議とこの本を読んでいると穏やかな気持ちを取り戻せるのだった。

様々な試練の連続の中でも一貫して追求されていたのは、信じるとはどういうことか、であった。ロドリゴには、

二重三重の信仰——あるいはもっと普遍的に、信頼と言いつても差し支えないだろう——があった。まず、神への信頼。そして真面目な日本人の国民性への信頼。最後に、尊敬する師フェレイラへの信頼。彼の信頼は、どれも粉々に打ち壊された。信者たちは神の沈黙の下で殉教を迫られた。ロドリゴを騙したり、棄教と新人戻しを何度も繰り返したりするような日本人もいた。フェレイラは変わり果て、自分が棄教したことを必死に正当化した。

ロドリゴはその度に、恐怖とさえ呼べる絶望を感じたことだろう。そんなはずはない、と現実を受け入れがたく感じたはずだ。実際彼はゆるぎない事実を前にしても、自分が抱く信頼をなかなか手放せずに葛藤していた。

そんなロドリゴの背中を見て考えさせられたのは、信じるということのプロセスについてだ。人は何かを信じている、と言うとき、一口に同じ「信頼」と表現はすれど、そこにはいくつかの種類があるように思われる。例えば私は地球が丸いことを信じているし、それを疑ったこともない一方で、実際に地球が丸いことを宇宙から見ても確かめたことはない。これが一つ目の「信頼」。あるいは、私は物体の落下速度はその質量によらないと授業で知ったけれど、どうしても疑わしく思った後、実験しようやく納得した之が。これ二つ目。

何が言いたいのかというと、揺るぎない信頼には、会議と実体験の二つのプロセスが必須だということだ。こ

れらを経たかどうかで、信頼というものの質は全く異なるといっても過言ではない。そして、このプロセスに伴う葛藤は、人間に不可欠な栄養素だと私は思う。

さて、ここで私は、この物語の真の主人公はロドリゴではないと思っていることを告白したい。私が実のところ共感をおぼえ、心をひかれたのは、棄教した師フェレイラだった。

フェレイラは苦い経験を経て、キリスト教は日本に根付くようなものではなかったのだと結論付ける。彼の経験を思えばその結論は至極真つ当で、それでも私は、光のない彼の目に激しい感情が宿っている気がした。

彼が感じているのは多分、羨望だ。人間らしく葛藤するロドリゴに、羨望と嫉妬の入り混じった不快を感じ、必死で目をそらしながら自分を正当化したのだ。信頼のプロセスを捨てた孤独と自分は、甘やかに彼をむしばむ。今になって、私の感じていた空恐ろしさの正体は孤独だったのかもしれない、と思いが当たった。私は基本的にふわふわと生きているので、全てを簡単に受け入れるし、信じてしまう。だけど、全てを信じることは、全てを信じないことと同義なのかもしれない。

何を信じ、何を信じないかという選択肢、自分の軸をポンと手放してしまうことで私は、他を拒絶し、自ら孤独を深めてきたのだ。葛藤から逃れるために信頼のプロセス自体を手放した私は、フェレイラそのものだった。何かを信じることには様々な苦しみが伴う。信頼とい

第70回青少年読書感想文コンクール 京都府私立学校図書館協議会優秀賞 京都府私立学校図書館協議会佳作

「自信を求めて」

高校一年 野村歩 那

読書感想文に向けての本を選び終わり帰ろうとしたとき、ある題名に惹かれた。それは、「どうせ無理と思っている君へ」だ。なぜか自分に問われているような気がした。この本を読めば何かが変わるという直感が働き、本書を読み始めた。

本書には、本当の自信の増やし方について書かれていた。読み進めているうちに、私の悩みや、心の中にあるちよっとしたもやもやがどんどん解決されていった。「どうしたら自身をもてるのだろう。」これは多くの人が一度はぶつかる大きな壁だと思う。私もついさっきまでぶつかっていた。でも、立った一冊を読むだけで乗り越えることができた。

特に心に残った言葉は「誰かと比べたり、何かの勝負に勝つたりして生まれるのは自信ではなくて、優越感です。」だ。この錯覚を筆者は「優越感ウイルス」と呼んだ。このウイルスはあらゆる方法で「自分はある人に勝っている。」と言い聞かせ、自分を安心させているものらしい。私はこの言葉を見たとき息をのんだ。今の私

うものは脆くて危なっかしくて、しかしそれゆえに美しいのだった。私はこれからフェレイラと一緒に、自分が信じたいと思えるもの一つずつ大切に選び取っていきたいと思った。泥臭くても構わない、愚かしくも懸命に信頼のプロセスを重ね続けたい。

沈黙。作者が最初につけた題は、「日向の匂い」だったそう。ぼかぼかと暖かい日差し。おひさまの、悠遠のにおい。孤独と絶望の物陰にも、光は平等に降りそそいでいた。あるときその輝きに気が付いて、顔を上げる。日向の匂いの中で、思い切り深呼吸する。しばしの沈黙のあと、私たちは再び歩み出す。

沈黙は祈りなのだ。この祈りは、例えば小さな頃に親しんだささいなおまじないのような、そういう類のものだ。あーした、いい日に、なーあれ。――私が信頼のプロセスの一步を踏み出す勇気を、持てますように。

沈黙は祈りだ。そして、祈りは沈黙の間のみ行われるのだ。なぜなら祈るべき対象は、常に自分の中にいるから、一番最初に信頼すべきは、信頼のプロセスへと歩みだそうとする、自分自身の決意なのだ。

そのものが書かれているような気がしたからだ。まわりの人よりいい点数をとれたとき、うれしさよりも安心が先だった。私は「まわりよりよかったから大丈夫。」と偽物の自信をもとうとしていた。そこで自信がほしかったのではなく、優越感に浸ろうとしていたことに気付いた。競争も勝負も、モチベーションややる気を向上させてくれるが、本当の自信はくれないという落とし穴があった。勝つたなら維持しなくてはというプレッシャーや期待がストレスとなり、体調も不安定で、家族や友達に強くあたっていた気がする。ここで私の勝負事への目的が変わった。自信を手に入れるためではなく、自分を知らためへと。勝っても、負けても、自分を知るために勝負に挑むのなら、結果はどうであれ得られるものはある。自分は何に強くて、何に弱いのかを知れる。自己分析して得た知識は、これから役立っていくと思う。もし、このまま自信を手に入れるために勝負に挑んでいたら、その自信が優越感であると気づかなかつたらどう。負けてもつと自信を失っていたかもしれない。読んでいてはつとさせられた場面だった。

もう一つ心に残った言葉がある。それは「自信と夢はつながっていますから、夢も一つじゃないほうがいいのです。夢もたくさんあったほうがいいのです。」だ。私は、夢を見つけれないことによく悩んでいた。でも、この言葉を目にしたとき、どうして夢が見つからないのかわかった。それは、いきなり夢一つに絞ろうとして

いたからだ。私はやってみたいと思っても、きっと自分には無理、やる自信がないと、夢を捨てていた。この言葉を見て変わったことは、「夢を叶えること。」への考え方である。以前は「一つの夢をもちそれに向かって努力し、叶えること」と考えていた。でも今は「たくさんの夢を追い続けていけば、いずれ一本道ができ、たくさんの夢の中の一つが叶う。」と考えるようになった。夢は、興味や好奇心から生まれるものだと思うている。その興味や好奇心は自分の意思から生まれるものだ。筆者は夢と意思はイコールだと言っている。つまり、「夢がない。」というのは「意思がない。」ということになる。この言葉を見て私は危機感を覚えた。夢を見つめるうえで大切なのは、自分の意思を尊重することだと気付けた。今の自分の趣味や好きなことを続けたり、新しい趣味を見つけて夢へと発展させて、夢がない状況を改善していきたい。私にとって将来のこと、自分のことを深く考えることができた場面だった。

本書を通して、自分のこと、相手のこと、未来のこと、過去のこと、たくさん考えさせられた。そして、私が欲しかった言葉を何度も何度も、言ってくれた。最後に、本当の自信のもとになる正体を知った。それは「やさしさ」だった。やさしさを世のため、人のために使い、誰かが笑顔になればそのやさしさは自信になり、増えていく。素晴らしい結果から生まれる自信ではなく、思いやりのある行動をすることで生まれる、比べなくていい自

信とその増やし方を知った私は、また一つ大きな壁を乗り越えることができた。
この本は私にとって一筋の光だ。傷ついていた心を癒やしてくれて、生きていく中で大事なことをたくさん教えてくれた。私もいつか、自信がもてなくて、どうせ無理と思っている誰かの力になりたい。



第70回青少年読書感想文コンクール 京都府私立学校図書館協議会優秀賞 「魔女希望ではないが」

自分の意志を大切に」

中学三年 加藤詩織

「アイ・ノウ」読み終わった今、西の魔女の声が私にも聞こえてくるようです。優しい魔女の声。読んでいる間中ずつと変わらず「アイ・ノウ」の返事が、なんて安心し心を穏やかにしてくれる言葉なんだろうと思えました。

私は、この西の魔女が主人公の女の子を怖がらせない方法で、どのように死を伝えるのか、とてもとても気になりながら読んでいました。本当にそんな方法があるのかな？と。すると、本当に怖くない方法で死を知らせて最後まで本当に凄い人だと思いました。そして、次の瞬間、この主人公の女の子と同じように、西の魔女の死を寂しく感じました。

主人公の女の子が直接、西の魔女に伝えられなかった言葉や気持ちを考えていた時、私はふと、半年程前に母とけんかした時のことを思い出しました。その日は本当に腹が立っていて母と激しく言い合いをして、祖母が仲介に入ってくれました。その時、祖母は「親子のけん

かに口をはさむことはしないけれど、お互い明日会えなくなるかもしれないと思って、素直になり、そしてお互いを傷つけないように言葉を出さない。世の中、本当に明日どうなるかわからないよ。何がおこるかかわからない。後悔しないように生きなさい。謝りたいと思った時に、その人はいないかもしれないよ。」とっていました。この本の主人公の女の子の気持ちと私の祖母の言葉がつながって、人に対する行動・言葉に気をつけて毎日を過ごしていきたいと思えました。

この本の中では主人公の女の子は、魔女修行で早寝早起きなど基本的なことからはじめていましたが、毎日となると本当に難しいと思います。そしてこの魔女の家は、別世界というか女の子の日常だった（今の私達の日常のような世界）からも、ずいぶん違った世界だっただろうなと思います。私だったら今の世の中の情報をもっと知りたいし、そして自然すぎるその世界で何日も過ごせるかなと思います。ぼーっとする時間も大事だよと家族からもよく言われます。もし私がこの西の魔女の家の環境に行ったら、暇で暇で仕方ないだろうなと思います。けれども、この主人公の女の子は、西の魔女と過ごした家・時間で大切なものを得て成長したことは確かなことだと思います。そして、それは今の世の中に生きる私達が忘れてはならないような気がします。目まぐるしく変わる今の世の中、沢山の情報、それに疲れている人も多いとニュースなどからも感じられ

ます。自分の意志・感性をどれほど優先させて認めても
らえる世の中なのか、それとも流される方が生きやすい
のか。そこで、私はふと思いました。ここまで田舎に行
かなくても良いと思いますが、一生に一度はみんな数ヶ
月それぞれの人にこんな魔女修行みたいなものがあれば、
もっと心豊かになれるのではないかと思いました。義務
教育の間に入れても良いかもしれませんが。携帯電話が大
好きな私が言うのもなんですが、携帯電話持ち込み禁止
とかの条件をつけて。そして辛いことがある人みんなに、
西の魔女の人のような人や場所があれば良いのになと思
います。

西の魔女は、優しさだけでなく、力強い芯のしつかり
した人だと思います。こんなにぶれずに一人ですっかり
この田舎で生きていける西の魔女、どんな経験を重ねた
のかな。

そのあたりも、気になるところです。「アイ・ノウ」
あの優しい声の奥には、きつと人には見せない努力も経
験もあつたはず。本の中から、読んでいる私達にも生き
方や忘れてはいけないこと、そして死に対する考え方も
教えてもらった気がします。

最後に、この主人公の女の子が生きていた学校や家庭
環境は、今をあらわしている気がしました。これから私
達の世界はますます進化していくと思いますが、西の魔
女が住んでいたような世界や自然・時間の使い方・精神
を磨くことを忘れてはいけないことだと思います。AI

第70回青少年読書感想文コンクール 京都府私立学校図書館協議会優秀賞

「私のマエストロ」

中学二年 長谷川 和 泉

私の祖父は、何十年前も前から地元で治療院を構え、近
隣の人だけでなく遠方に住む人にも頼りにされる腕のよ
い整体師だった。だが、今年の春、自身の手を骨折する
というアクシデントに見舞われ、年齢的なこともあつて
引退せざるを得なくなりました。私自身は赤ちゃん
の頃からよく治療院に連れていってらつていたので、
両親をはじめそこを訪れる患者さんが祖父から施術を受
けている様子をたくさん見てきた。また祖父は、成長痛
や体のかゆみが気になるようになった私にも、一人の大
人を相手にするかのよう丁寧な心を入れて整体をして
くれていた。そんな祖父が「仕事を辞める」、「治療院
を閉院する」という大変な決断を下したことへのシヨッ
クはとても大きかった。通院されていた患者さんからも
閉院を惜しむ声が祖父の元へ続々と届いていたようだ。

しかし、そのシヨックはほかの誰でもない祖父自身が
一番痛感していたようで、手の治療や回復に専念しなけ
ればならない時にでも、「僕にとつては仕事が生きがい
やつたのに：」「患者さん、どうしてはるかなあ」と毎
日悲しそうな顔で話していた。治療院を引き払うことに

には、わからない大切な世界だと思っています。人間は、せつ
かく五感で感じる能力を持つているものですから、この魔
女たちのように自分を磨き、自分の意志で決め、人間を
楽しみながら生きていきたいと思えました。そして、い
つか体から魂が脱出してしまふ日まで、自分らしく毎日
をできるだけ楽しく生きていきたいと思えました。みん
なが心身ともにのびのびと生きやすい未来でありますよ
うに。

なり、そこにあつた何もかもがすべて運び出された日も、
祖母や両親に「僕は悲しくて立ち会えないからよろし
く」と頼み、ただ一人、家で落ち込んでいたそうだ。い
ずれはそんな日が来るだろうと家族は思っていたが、い
ざそんな日が来てしまうと、みんながみんな想像以上に
深い悲しみに包まれてしまい、祖父にかける言葉も見つ
からなかった。

そんな最中に手にした『ノクツドウライオウ』で、私
は「靴の往来堂」の店主、通称マエストロと出会った。
マエストロとは、イタリア語で師匠という意味だ。何年
も続くオーダーメイドシューズ店の四代目であるマエス
トロは、絶対に信念を曲げない頑固者だ。「ノクツドウ
ライオウ」と読み間違いをされてしまうレトロな看板も、
多くの人にとっては「古い建物」と思われる築百年の店
舗も、強い心で守り続けている。

また、木型や靴の川に使う素材にもこだわりを持って
いるし、靴の制作工程も、素人の私が想像するだけで気
の遠くなるような作業の連続である。その大変さを見か
ねた孫の夏希が、一つ一つの作業が大幅にカットできる
セミオーダーメイドの手法を提案した時も、「お客さん
の顔を一度も見えないような仕事はやりたくない」と聞く
耳を持たなかった。店を続けられるかどうか。経済面でも
体面でも日々悩んでいるマエストロであったが、急
な依頼や相談はお客さんのためだと快く受け入れる。お
客さんに喜んでもらうことを一番に考える、とても芯の

生徒会活動

令和7年度生徒会役員名簿

高校

会長	平井知沙	副会長	坂みのり
議長	川西瑛心	副議長	土井愛望
体育部長	森澤柚葉	体育副部長	林廉二郎
文化部長	舟山樹里	文化副部長	チョウドリ凜都
総務部長	澤田菜花	総務副部長	久保真由子
庶務部長	山名野々香	庶務副部長	梅原蒼太
会計委員長	川西瑛心	会計副委員長	梅原蒼太
風紀委員長	伊藤大也	風紀副委員長	飯田颯太
美化委員長	吉見侑華	美化副委員長	米倉拓海
福祉委員長	川相優斗	福祉副委員長	西川愛
報道委員長	服部楓	報道副委員長	坂みのり
役員	松山要	役員	久保田陽晴
役員	東直巨紀	役員	松田新奈
役員	桑原友香	役員	樋口楓花
役員	廣瀬佳紀	役員	大石皆実
役員	井内乃愛	役員	黒田智久
役員	山藤優利亜	役員	廣田実里

中学

副会長	吉村英玲奈	副議長	山端さくら
役員	井上愛梨	役員	片山萌音
役員	元山柚羽	役員	上山紗弥

通った職人さんだ。
私はこのマエストロが、全くの他人だとは思えなかった。むしろ、マエストロのことを知れば知るほど、整体師として日々仕事に向き合っていた祖父の姿勢に通じる部分がたくさんあり、途中からは、マエストロに祖父を重ねて読んでいる自分がいた。
祖父は休みの日さえ、「ぎっくり腰」など急な患者さんの要請にもすぐに対応し治療院にかけつけることも多々あったし、遠方の人には、自分でできるストレッチを電話口で親身になって伝えることも当たり前のように行っていた。いつもはお話好きで冗談ばかり言っている面白い祖父だけど、患者さんのことになると真剣な顔つきになるのもマエストロと同じで「祖父もこんな風に患者さんのことを一番に考えていたんだな」と改めて思い知ることができた。

小さい頃、整体してもらおうという母について行った時、隣で見ていた私に「和泉も整体してあげようか？」と言われた時は本当に嬉しかったし、施術してもらった後は自分の体が動きやすくなるのが不思議で、心から感動したことを今でもはっきりと覚えている。また、施術を受けた患者さんが、「先生、さっきまでと全然違う。楽になったわ」と生き生きとした表情で祖父に話し、「また辛い時はすぐにおいで」と嬉しそうに言葉を返す祖父の様子も私には大変印象的だった。物語を読み進めるにつれ、祖父が治療院で仕事をしてきた時の記憶が次々と

よみがえり、一気に寂しさが込み上げてきた。
全体の仕事を通じて患者さんと心を通わせていた祖父の日常は戻ってはこないけど、高齢になるまで仕事一筋に頑張ってきた祖父には、現役時代を忘れることなく、少しでも前を向いて明るく元気に過ごしてほしいと思う。そしていつまでも私たちのマエストロでいてもらいたいと強く願っている。
これから私は、そんな家族のマエストロである祖父を見習って、自分の持っている力を最大限に発揮し、何事も最後までやり遂げるということを大切にしていきたい。そして、どんなことが起きても感謝の心でポジティブに歩んでいきたい。私も、一歩ずつでも、マエストロに近づいて行けるように……。

生徒会役員をして

高校生徒会長

鶴原 悠 揮

「文教でよかった」と思える学校づくり」

私はこの言葉を胸に、学園祭を始めとした各活動を全力で行ってきました。

ところで、皆さんは二〇二四年の学園祭テーマを覚えていらっしゃるでしょうか？ テーマは「Re:STARTs」には、一二〇周年の節目に学校を今よりもっといい学校に変えていきたい、再出発を切りりたい、という想いを込めていました。

そんな想いと共に迎えた今年の学園祭は、どこか例年と違った雰囲気がい、運営側の私たちスタッフも落ち着かない状態でスタートしました。特に文化祭では、Rhythmic Toy Worldさんを始めた様々な方にお越しいただいての文化祭という、今まで経験の無い何もかも新しいことをすることになっており、私も不安とワクワクを抱えながら当日を迎えました。実際学園祭が始まってみると、どの行事も大きな問題なく行われ、胸を撫で下ろしたのを覚えています。

イレギュラーなことが多かったにも関わ

らず、最後まで無事に走り切れたことは、生徒の皆さんの笑顔、先生方のご協力が無ければ実現しませんでした。この場をお借りして皆さんに心からの感謝を申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

高校副会長

長谷川 柚 葵

私は高校二年生の夏から生徒会に所属し、副会長を務めさせて頂きました。友人に誘われて入ったこともあり、初めは特に目標も無く自ら率先して仕事を探したり、聞きに行ったりすることが出来ず仕事を覚えることもままならない状況でした。私たちの代は人数が少なかったのですが、その中で副会長という役を推薦されました。そこで、副会長として責任をもって最後まで全力で取り組みたいという気持ちに変わりました。

今年の文化祭では一二〇周年ライブがありました。事前に打ち合わせをしていましたが、予想していたより人が多く、混雑していました。想定外のことでの列の形成や誘導に戸惑ったことをよく覚えてます。しかし、駆け付けた生徒会役員やOBの方、先生方の協力のおかげで無事に終えることができました。

生徒会として活動した一年半、沢山の貴重な経験をさせて頂きました。短い間でしたが本当にありがとうございました。

高校議長

岩崎 涼太郎

私は、一年間、議長、風紀委員長を務めさせて頂きました。コロナ感染が収束し例年通り行うことが可能になった学園祭を「みんなの思い出に残る再スタートの学園祭にする」を目標とし、日々活動してきました。私が、生徒会活動を通して学んだことは、話し合いをする大切さです。話し合いをすることで様々な意見が共有され自分自身では、気づくことのできなかつた考え方が発見できました。そして協力し合い目標を達成しようとする活動は貴重なものになりました。

一年間の生徒会活動を通して特に風紀委員長としては、先生方と話し合う機会が多かったり、人前に出て話す機会があったりと、今までの私では、自ら進んですることがない体験ができました。そして、その体験を通して成長することができたと感じています。生徒会の活動を通して多くのことを学び成長

したことをこれからも大切にし、活かしていきたいと思えます。生徒会役員や先生方また、支えてくださった皆さん本当にありがとうございました。

います。有難う御座いました。

高校副議長

吉澤 崇 琳

私は生徒会副議長と美化委員長をこの1年務めさせて頂きました。最初は仕事がままならず、生徒会の後輩や先生方に支えられながらなんとか仕事をしてきました。

美化委員の仕事は校内の美化活動、とりわけ文化祭時のごみの分別、回収が主な業務でした。昨年からコロナによる規制が緩和され、以前のような規模での文化祭という事もあり、やらなければならない事が数多くありました。時には完全下校ギリギリまで学校に残り、作業する日も有りました。正直、辛いと思うような事も多く心が折れそうになることも有りました。しかし、当日の生徒の皆さんの楽しそうな表情を見て、やってよかったな、頑張ってたよかったな、そう思いました。

この一年で私自身、大いに成長できたように感じます。最後になりましたが、今まで支えてくださった皆さんに感謝を述べたいと思

中学副会長

吉川 宥 人

私は中学入学前から生徒会に入ろうと決めていました。その理由は、縁の下の力持ちになりたかったからです。

実際の生徒会活動は私のイメージしていたものと違う点も多くありましたが、それでも自分のできるだけのことはやりきったと思います。

なかでも力を入れたことは二つあります。一つ目は学校行事の企画時にたくさんアイデアを出したことです。残念ながらポツになっちゃったアイデアもありますが、生徒会の皆で話し合った時間はとても楽しかったです。

二つ目は企画を形にしたことです。自分の企画したことが形になるのはとても達成感がありました。そしてこの二つは私にとって生徒会活動の楽しさ、それと同時にやりがいでもありました。三年間の生徒会活動は、私に「人を笑顔にすることの嬉しさ」を教えてくれました。高校に進学したら、今までの経験を活かし、やりたいことを実現するために今まで以上に生徒会活動に力を入れたいと

思っています。

中学副議長

中田 茜

私はこの一年間、生徒会副議長となり、色々なことを体験する事ができました。最初は生徒会副議長という大きな役をもらって不安に思っていました。行事に参加することで次第に慣れていき、周りの先輩や同級生に支えられ、生徒会活動をとっても楽しむことができました。行事は文化祭や体育祭、合唱祭などに参加しました。その中でも、合唱祭や体育祭の影マイクはとても緊張しました。慣れない影マイクをするのは難しく、話す速さを調整したり、説明などの言葉選びにもとても苦労しました。時にマイクや時間トラブルもあり大変でしたが、先輩や先生のお陰でうまく話せるようになったと思います。中学生は人手が足りない中で頑張ったので、こうしてみんなが楽しかったと思えるような行事を行って本当に良かったと思っています。慣れないことではあったが生徒会活動ですが、私にとって貴重な経験になりました。これからの人生で、この経験を活かすことができたいと思います。

退職される先生方



中本 □ □ 先生

今年勤続三十周年を迎えることが出来ました。ちょうどその同じ年に退職ということできりがいいなと思っております。

京都文教には女子高時代からお世話になり、校訓である「やさしい人になってほしい」がしっかり守られている生徒たちに囲まれて、仕事が出来たことに大変感謝しております。

特に生徒会主催の学園祭では、京都会馆（現ロームシアター）での発表でお手伝いをしたり、クラス発表のダンスと一緒に踊ったりしました。また劇に参加したり、お化け屋敷、カジノ（ゲームセンター）の企画、運営を生徒たちと一緒に取り組んだことはとても楽しい思い出です。そして体育祭では、華やかな応援合戦に感動したり、衣装を着て走ったりしました。

ここ数年は、足の速い生徒が多く、観戦することを楽しみにしていました。

これからも生徒会を中心に自分たちが楽しめる素晴らしい企画を立てて学園祭を盛り上げてください。今後とも皆さんのご活躍を期待しています。

定年を迎えて

道端 宗昭 先生

私の京都文教中学高等学校での担任業務は中学一年五組から始まり、高校二年四組が最後のクラスとなりました。

思い返せば四十年前、この学校にご縁をいただきました。学校はちょうど八十周年を迎え、中学校の校舎として正道館が完成し、新たな学習システムを導入してのスタートの年でした。

当時は女子校で三宝帰依を基に社会に貢献できるやさしい女性の育成を主眼とした教育を行っていました。

その頃の本校は、家庭のような和気あいあいとした雰囲気の中で、教員も生徒も楽しく学校生活を送っていました。

たとえば体育祭では仮装行列があり、担任に衣装を着せて色々なものに扮装させ、クラス同士が競い合い、それが非常に滑稽で盛り上がったことを覚えています。

この四十年間で社会も大きく様変わりしました。学校もまた然りです。

しかし、京都文教の先生方の生徒に対する手厚い対応は昔から変わらず続いています。良き伝統は残し、悪しき制度はなくして更なる進化を遂げられることを期待しつつ、筆を置きます。

図書館は憩いの場

図書館係長・司書 大森 明枝 先生

みなさんは、図書館を利用したことがありますか？司書としてまず言いたいのは「心の休息をとりに行く、気楽な居場所」だと思っていたきたいということです。実際最初は黙って入館してきても、毎日通っているうちに挨拶してくれるようになり、もっと慣れてくると展示されている本を手に取り、自習もしはじめます。そして図書館は、文学だけではない「情報の宝庫」だということです。正しい文章に触れ、確実な情報を得る場所です。ぜひ図書館の扉を開いてみてください。司書がご案内します。

私は、今の自分の知識や言葉は、周りの言葉に影響を受けてと考えています。では「ここら」はどうでしょう？これも私は「言葉」だと思えます。

何気ない言葉で相手を傷つけたり、嬉しかったりします。感情の豊かな中高生時代に同級生だけではなく、世代の異なる多くの人たちと会話をしてみてください。それが難しい人は司書に話しかけてください。徐々に言葉にすることであなた自身の糧になるので試してみてください。

最後に、図書館に着任して私が目指したのは「生徒さんの気持ちに寄り添う図書館」を作ることでした。おか

げさまで今年卒業します。皆さんに出会えて幸せでした。ありがとうございました。

菩提樹 第66号

令和7年3月1日

発行所 京都文教生徒会
京都市左京区岡崎円勝寺町5

編集者 大橋俊光
平田博美

発行者 初田泰宏